

2017年度

大学院シラバス

看護学研究科

摂南大学大学院

看護学研究科

Graduate School of Nursing Science

看護学専攻

Division of Nursing Science

看護学研究科の教育目標とカリキュラム編成方針

近年の科学の進歩と医療の改革に伴って、従来にも増して、看護は専門性の高い知識や技術をもって、人々の健康ニーズに対応した活動が求められています。

看護学研究科は、地域や医療の場において、最新・最善のケアを多職種と協働・連携しながら提供し、医療機関から在宅への移行、医療を受けながら地域で生活を営む人々に対し、看護の専門性を発揮しながら地域の多職種で構成されるチーム医療の中でリーダーとしての役割を果たす看護実践者ならびに看護学という学問を発展させるため、自らが課題を発見し探究できる研究能力を基盤とする看護教育者を育成することを目的とする。

本研究科では、がんや心疾患で医療を必要とする患者および地域で生活する難病患者とその家族への支援方法の開発、認知症や介護予防のための健康づくりの取り組み、子ども虐待防止に向けた子育て支援や発達障害の子どもと家族に対する支援方法の構築、生涯にわたる女性の健康保持増進のための支援など、実践につながるテーマに重点をおき、「療養支援看護学領域（療養生活支援看護学、地域療養生活支援看護学）」、「健康発達支援看護学領域（発達支援看護学、女性健康看護学）」の2つの領域（4つの分野）を設定し、これら専門領域のほか、横断的に学修する共通科目を設定し、専門性を深め効率的かつ効果的に修学する。

目 次

看護学研究	1	地域療養生活支援看護学特論	14
チーム医療演習	2	療養生活支援看護学演習	15
臨床看護倫理	3	地域療養生活支援看護学演習	16
フィジカルアセスメント特論	4	療養生活支援看護学援助特論	17
疾病・病態特論	5	地域療養生活支援看護学援助特論	18
薬物治療学特論	6	発達支援看護学特論	19
医療経済特論	7	女性健康看護学特論	20
地域医療防災演習	8	発達支援看護学演習	21
看護人間工学特論	9	女性健康看護学演習	22
看護教育特論	10	発達支援看護学援助特論	23
看護教育方法演習	11	女性健康看護学援助特論	24
看護現任教育特論	12	特別研究	25
療養生活支援看護学特論	13		

科目名	看護学研究	科目名 (英文)	Nursing Research
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	赤井 由紀子, 小堀 栄子, 森谷 利香

授業概要・目的	看護学における研究の意義を理解し、看護を論理的・客観的・実証的に捉える視点を学ぶ。看護学研究における2つの基本的アプローチである質的研究と量的研究の概要を理解し、それぞれの方法論の持つ特徴、適用、限界について考察する。さらに研究論文のクリティーク、研究計画の作成について学ぶとともに、看護学研究の倫理を理解したうえで、研究者としての基本的あり方を学ぶ。加えて、看護実践に結びつく看護学研究のあり方についても考察する。																																																	
到達目標	(1) 看護学における研究の意義と役割と看護学研究のあり方から、看護学研究の基礎知識とそのプロセス、文献検討の要点、看護学研究の倫理的側面、研究計画の作成について理解できる。 (2) 量的研究で科学的根拠のある研究結果を得るために必要な基本的知識と考え方から、看護学研究への活用を考察できる。 (3) 質的研究の特徴および代表的な研究方法とその理論的前提の概要について理解できる。																																																	
授業方法と留意点	講義後に自己学習課題を提示する。次回の講義までに課題の到達を確認し、学修を深めることができるように工夫する。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護研究の意義と役割</td> <td>看護における研究の役割と看護研究のあり方</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護研究の基礎知識</td> <td>看護研究の基礎知識と研究のプロセス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文献検索と文献検討</td> <td>文献検索と研究論文のクリティーク</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>看護研究の倫理</td> <td>看護研究の倫理的側面について</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>研究デザインと概念枠組み</td> <td>研究デザインと研究における理論と概念枠組み</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>科学的根拠のある研究結果を得るために (1)</td> <td>量的研究のデザイン (1)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>科学的根拠のある研究結果を得るために (2)</td> <td>量的研究のデザイン (2)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>研究結果を歪めるものへの対処</td> <td>偶然誤差、バイアス、交絡</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>統計の考え方</td> <td>推定と検定</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>差があるとはどういうことか</td> <td>サンプルサイズとその必要性</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>質的研究の特徴</td> <td>質的研究の特徴と目的</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>質的研究方法 (1)</td> <td>質的研究の方法 (1) データの種類と収集方法</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>質的研究方法 (2)</td> <td>質的研究の方法 (2) データ分析とまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>看護研究計画書 (1)</td> <td>研究計画書作成までのプロセス</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>看護研究計画書 (2)</td> <td>研究計画書作成の作成方法</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法等	1	看護研究の意義と役割	看護における研究の役割と看護研究のあり方	2	看護研究の基礎知識	看護研究の基礎知識と研究のプロセス	3	文献検索と文献検討	文献検索と研究論文のクリティーク	4	看護研究の倫理	看護研究の倫理的側面について	5	研究デザインと概念枠組み	研究デザインと研究における理論と概念枠組み	6	科学的根拠のある研究結果を得るために (1)	量的研究のデザイン (1)	7	科学的根拠のある研究結果を得るために (2)	量的研究のデザイン (2)	8	研究結果を歪めるものへの対処	偶然誤差、バイアス、交絡	9	統計の考え方	推定と検定	10	差があるとはどういうことか	サンプルサイズとその必要性	11	質的研究の特徴	質的研究の特徴と目的	12	質的研究方法 (1)	質的研究の方法 (1) データの種類と収集方法	13	質的研究方法 (2)	質的研究の方法 (2) データ分析とまとめ	14	看護研究計画書 (1)	研究計画書作成までのプロセス	15	看護研究計画書 (2)	研究計画書作成の作成方法
回数	授業テーマ	内容・方法等																																																
1	看護研究の意義と役割	看護における研究の役割と看護研究のあり方																																																
2	看護研究の基礎知識	看護研究の基礎知識と研究のプロセス																																																
3	文献検索と文献検討	文献検索と研究論文のクリティーク																																																
4	看護研究の倫理	看護研究の倫理的側面について																																																
5	研究デザインと概念枠組み	研究デザインと研究における理論と概念枠組み																																																
6	科学的根拠のある研究結果を得るために (1)	量的研究のデザイン (1)																																																
7	科学的根拠のある研究結果を得るために (2)	量的研究のデザイン (2)																																																
8	研究結果を歪めるものへの対処	偶然誤差、バイアス、交絡																																																
9	統計の考え方	推定と検定																																																
10	差があるとはどういうことか	サンプルサイズとその必要性																																																
11	質的研究の特徴	質的研究の特徴と目的																																																
12	質的研究方法 (1)	質的研究の方法 (1) データの種類と収集方法																																																
13	質的研究方法 (2)	質的研究の方法 (2) データ分析とまとめ																																																
14	看護研究計画書 (1)	研究計画書作成までのプロセス																																																
15	看護研究計画書 (2)	研究計画書作成の作成方法																																																
事前・事後学習課題	事前課題：教科書を読んでおく 事後学習課題：講義内容の復習																																																	
評価基準	出席・講義への参加状況、課題への取り組み、課題レポートやプレゼンテーションの内容を基に総合的に評価する [評価割合] 出席・参加状況 : 20% 講義での回答内容 : 10% 発表・レポート : 70%																																																	
教材等	教科書：「看護研究－原理と方法」 D.F. ポーリット他 (近藤 潤子 監訳) 医学書院 「ナースのための質的研究入門」 ホロウェイ&ウィーラー著 (野口 美和子 監訳) 医学書院 参考書：「これからの看護研究 - 基礎と応用」 松本 光子、小笠原 和枝 ヌーベルヒロカワ 「Step Up 質的看護研究」 谷津 裕子 学研																																																	
備考																																																		

科目名	チーム医療演習	科目名 (英文)	Advanced Seminar of Interdisciplinary
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	通年集中	授業担当者	細田 満和子, 田崎 弘美

授業概要・目的	患者を中心とした安全で良質な医療の実現を目指し、チーム医療を推進できる知識や態度を修得するとともに、フィールドワーク・実習を行って、職種間の相互理解と連携、協働の現状を知り、チーム医療について考えることのできる能力を身につける。チーム医療の構成員としての自身の専門性を活かし、リーダーシップを発揮できる力を養う。																																																	
到達目標	(1) チーム医療の歴史、制度を学び、チーム医療について4つの要素からチーム医療の在り方を考察する。さらに、事例を用いてそれぞれの要素について理解を深める。 (2) フィールドワーク・実習を行い、それぞれの職種の専門性を理解したうえで、協働の現状を知り、看護師としてのリーダーシップのあり方を学修する。																																																	
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき授業を行う。授業計画に沿って学生にレジメ作成、プレゼンテーションを求める。テーマ内容についてできるだけ深く学修できるよう、内容について議論を行う。また、学修の各段階において、きめ細やかな指導を行い、知識や内容を整理し課題を明確にできるよう指導する。フィールドワーク・実習は、星ヶ丘医療センター地域連携相談室・外来で指導の下、実践を行う。いずれも平日、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って実施する。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>チーム医療の歴史</td> <td>チーム医療の理念、歴史</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>チーム医療の要素</td> <td>チーム医療の4つの要素 (専門性志向、患者志向、職種構成志向、協働志向)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チーム医療の現実 (1)</td> <td>チーム医療の現状</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>チーム医療の現実 (2)</td> <td>チーム医療の困難</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>チーム医療とは</td> <td>チーム医療の条件・広がり</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>チーム医療の展望</td> <td>チーム医療への期待と看護職の役割</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第7回～28回 フィールドワーク・実習</td> <td>第7回～28回 フィールドワーク・実習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第29回～30回 まとめ</td> <td>フィールドワーク・実習の成果をプレゼンテーション後に、チーム医療のあり方について検討する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	チーム医療の歴史	チーム医療の理念、歴史	2	チーム医療の要素	チーム医療の4つの要素 (専門性志向、患者志向、職種構成志向、協働志向)	3	チーム医療の現実 (1)	チーム医療の現状	4	チーム医療の現実 (2)	チーム医療の困難	5	チーム医療とは	チーム医療の条件・広がり	6	チーム医療の展望	チーム医療への期待と看護職の役割	7	第7回～28回 フィールドワーク・実習	第7回～28回 フィールドワーク・実習	8	第29回～30回 まとめ	フィールドワーク・実習の成果をプレゼンテーション後に、チーム医療のあり方について検討する	9			10			11			12			13			14			15		
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																
1	チーム医療の歴史	チーム医療の理念、歴史																																																
2	チーム医療の要素	チーム医療の4つの要素 (専門性志向、患者志向、職種構成志向、協働志向)																																																
3	チーム医療の現実 (1)	チーム医療の現状																																																
4	チーム医療の現実 (2)	チーム医療の困難																																																
5	チーム医療とは	チーム医療の条件・広がり																																																
6	チーム医療の展望	チーム医療への期待と看護職の役割																																																
7	第7回～28回 フィールドワーク・実習	第7回～28回 フィールドワーク・実習																																																
8	第29回～30回 まとめ	フィールドワーク・実習の成果をプレゼンテーション後に、チーム医療のあり方について検討する																																																
9																																																		
10																																																		
11																																																		
12																																																		
13																																																		
14																																																		
15																																																		
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復習																																																	
評価基準	講義への出席および参加状況、課題への取り組み、課題レポートやプレゼンテーションの内容を基に総合的に評価する。 出席・参加状況：30% 講義での回答内容：30% 発表・レポート：40%																																																	
教材等	教科書 チーム医療とは何か 一医療ケアに生かす社会学からのアプローチ 細田 満和子 日本看護協会出版会																																																	
備考																																																		

科目名	臨床看護倫理	科目名 (英文)	Clinical Nursing Ethics
配当年次	1年	単位数	1
学期 (開講期)	前期集中	授業担当者	伊藤 恵子

授業概要・目的	臨床・教育・研究のあらゆる場における倫理的問題について、看護の実際例を通して、看護における倫理の必要性と重要性を考察する。加えて、倫理的問題の分析を実践的に学び、看護師としての対応のあり方、役割と機能を考察する。																																																	
到達目標	1) 臨床の現場での倫理的な問題とは何か、その中心的存在である患者、家族そしてそこに関わる医療者としての倫理性を理解できる。 2) 看護実践上の倫理的ジレンマを理解し、その調整プロセスについて考察できる。 3) 看護研究や看護管理上の倫理的課題について理解できる。 4) 医療現場における倫理観を醸成するための働きかけを探究できる。																																																	
授業方法と留意点	臨床倫理とは何かについて概観し、倫理原則、看護実践、看護管理、倫理的問題解決について学修する。また、倫理的課題を解決していくプロセスを通して調整を行うための必要な判断能力を養い、看護専門職としての役割や責務倫理調整について探究する。さらに、ディスカッションを通じて今日の看護における倫理的課題について模索する。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨床倫理とは</td> <td>臨床倫理とは何かについて臨床現場での考え方と概要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護専門職としての倫理</td> <td>専門職としての要件としての倫理、日本看護協会が示す看護者の倫理綱領について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護実践と倫理</td> <td>第1回2回を踏まえ、「看護実践と倫理的な活動とは」について考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>倫理的意思決定プロセス (1)</td> <td>臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>倫理的意思決定プロセス (2)</td> <td>臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>倫理的意思決定プロセス (3)</td> <td>臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>看護研究における倫理</td> <td>看護研究における倫理的配慮とその課題について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>看護管理における倫理</td> <td>組織を管理していく上で組織風土や文化の礎となる健全な倫理的価値観の醸成について</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	臨床倫理とは	臨床倫理とは何かについて臨床現場での考え方と概要	2	看護専門職としての倫理	専門職としての要件としての倫理、日本看護協会が示す看護者の倫理綱領について	3	看護実践と倫理	第1回2回を踏まえ、「看護実践と倫理的な活動とは」について考える	4	倫理的意思決定プロセス (1)	臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて	5	倫理的意思決定プロセス (2)	臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて	6	倫理的意思決定プロセス (3)	臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて	7	看護研究における倫理	看護研究における倫理的配慮とその課題について	8	看護管理における倫理	組織を管理していく上で組織風土や文化の礎となる健全な倫理的価値観の醸成について	9			10			11			12			13			14			15		
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																
1	臨床倫理とは	臨床倫理とは何かについて臨床現場での考え方と概要																																																
2	看護専門職としての倫理	専門職としての要件としての倫理、日本看護協会が示す看護者の倫理綱領について																																																
3	看護実践と倫理	第1回2回を踏まえ、「看護実践と倫理的な活動とは」について考える																																																
4	倫理的意思決定プロセス (1)	臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて																																																
5	倫理的意思決定プロセス (2)	臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて																																																
6	倫理的意思決定プロセス (3)	臨床での倫理的事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて																																																
7	看護研究における倫理	看護研究における倫理的配慮とその課題について																																																
8	看護管理における倫理	組織を管理していく上で組織風土や文化の礎となる健全な倫理的価値観の醸成について																																																
9																																																		
10																																																		
11																																																		
12																																																		
13																																																		
14																																																		
15																																																		
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復習																																																	
評価基準	授業への貢献、レポート等を総合的に評価し行う。 授業への参加度：10% 討議の参加度・達成度：40% 課題レポート：50%																																																	
教材等	参考書 看護実践の倫理 第3版 サラ T. フライ著 (片田範子他訳) 日本看護協会出版会 参考書 臨床倫理ベーシックレッスン 石垣 靖子、清水 哲郎 日本看護協会出版会 参考書 ケアの向こう側 ダニエル F. チャンプリス著浅野祐子訳 日本看護協会出版会																																																	
備考																																																		

科目名	フィジカルアセスメント特論	科目名 (英文)	Advanced Physical Assessment
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	小崎 篤志

授業概要・目的	<p>疾病を病因や臓器別病態から考えるのではなく、患者の示す様々な症状や診察所見の評価から分析・分類（フィジカルアセスメント）して意味づけをする方法論を修得する。これらの方法論の学修を通して、フィジカルアセスメントからの診断推論およびその対処法についても修得する。</p> <p>また、それに必要な知的基盤としての病態生理を学ぶ。</p>																																																		
到達目標	<p>(1) 身体診察のエビデンスを知る (2) 尤度比を理解し、身体徴候から尤度比を用いて判断することができる。</p>																																																		
授業方法と留意点	教科書を中心に、シミュレーターなども使用してセミナー形式で行う。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>科目のオリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>呼吸器・循環器の解剖生理 (1)</td> <td>呼吸器・循環器の解剖と生理を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>呼吸器・循環器の解剖生理 (2)</td> <td>呼吸器・循環器の解剖と生理を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (1)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 視診・触診を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (2)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 打診を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (3)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 聴診を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>画像診断 (X線) (1)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 画像診断 (X線) を学ぶ (1)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>画像診断 (X線) (2)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 画像診断 (X線) を学ぶ (2)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸・循環機能検査 (1)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 呼吸機能を学ぶ (1)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>呼吸・循環機能検査 (2)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 呼吸機能を学ぶ (2)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>血液ガス分析 (1)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 血液ガス分析を学ぶ (1)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>血液ガス分析 (2)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 血液ガス分析を学ぶ (2)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>呼吸器・循環器の代表疾患 (1)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (1)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>呼吸器・循環器の代表疾患 (2)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (2)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>呼吸器・循環器の代表疾患 (3)</td> <td>呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (3)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	オリエンテーション	科目のオリエンテーション	2	呼吸器・循環器の解剖生理 (1)	呼吸器・循環器の解剖と生理を学ぶ。	3	呼吸器・循環器の解剖生理 (2)	呼吸器・循環器の解剖と生理を学ぶ。	4	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (1)	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 視診・触診を学ぶ	5	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (2)	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 打診を学ぶ	6	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (3)	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 聴診を学ぶ	7	画像診断 (X線) (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 画像診断 (X線) を学ぶ (1)	8	画像診断 (X線) (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 画像診断 (X線) を学ぶ (2)	9	呼吸・循環機能検査 (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 呼吸機能を学ぶ (1)	10	呼吸・循環機能検査 (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 呼吸機能を学ぶ (2)	11	血液ガス分析 (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 血液ガス分析を学ぶ (1)	12	血液ガス分析 (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 血液ガス分析を学ぶ (2)	13	呼吸器・循環器の代表疾患 (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (1)	14	呼吸器・循環器の代表疾患 (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (2)	15	呼吸器・循環器の代表疾患 (3)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (3)
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																	
1	オリエンテーション	科目のオリエンテーション																																																	
2	呼吸器・循環器の解剖生理 (1)	呼吸器・循環器の解剖と生理を学ぶ。																																																	
3	呼吸器・循環器の解剖生理 (2)	呼吸器・循環器の解剖と生理を学ぶ。																																																	
4	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (1)	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 視診・触診を学ぶ																																																	
5	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (2)	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 打診を学ぶ																																																	
6	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーション (3)	呼吸器・循環器のフィジカルイグザミネーションの実際 聴診を学ぶ																																																	
7	画像診断 (X線) (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 画像診断 (X線) を学ぶ (1)																																																	
8	画像診断 (X線) (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 画像診断 (X線) を学ぶ (2)																																																	
9	呼吸・循環機能検査 (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 呼吸機能を学ぶ (1)																																																	
10	呼吸・循環機能検査 (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 呼吸機能を学ぶ (2)																																																	
11	血液ガス分析 (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 血液ガス分析を学ぶ (1)																																																	
12	血液ガス分析 (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントに必要な検査 血液ガス分析を学ぶ (2)																																																	
13	呼吸器・循環器の代表疾患 (1)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (1)																																																	
14	呼吸器・循環器の代表疾患 (2)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (2)																																																	
15	呼吸器・循環器の代表疾患 (3)	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントを理解し、その異常から推測される代表疾患を学ぶ (3)																																																	
事前・事後学習課題	教科書の担当するテーマを事前に熟読しまとめ、当日に発表・討論する																																																		
評価基準	出席、受講態度および課題発表などで総合的に評価する。																																																		
教材等	教科書：「フィジカルアセスメント徹底ガイド・呼吸」 高橋仁美、佐藤一洋著 中山書店																																																		
備考																																																			

科目名	疾病・病態特論	科目名 (英文)	Advanced Clinical Diagnosis and Pathophysiology
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	小崎 篤志

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能の障害である疾病の病態を理解する事は重要である。本特論は、自立した上級看護実践者および研究者として必要な疾病診断 および治療を実践するための知的基盤として、疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等の最新知識を修得する。さらに、これらに基づいた臨床推論能力と問題解決能力を育成する。																																																
到達目標	(1) 身体の病的変化を理解するために、代表的な症候と臨床検査値に関する基本的知識を修得する。 (2) 各々の症候に対する鑑別疾患を列挙し、その病態生理および鑑別法を概説できる。 (3) 各々の疾患の治療を学ぶ。																																																
授業方法と留意点	ビデオを視聴しながらセミナー形式で行う。																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>科目のオリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「四肢運動障害」</td> <td>「四肢運動障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「痛み」</td> <td>「痛み」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「ふらつき」</td> <td>「ふらつき」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「呼吸困難」</td> <td>「呼吸困難」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「嘔気・嘔吐」</td> <td>「嘔気・嘔吐」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「発熱・不明熱」</td> <td>「発熱・不明熱」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「腹痛」</td> <td>「腹痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>「倦怠感」</td> <td>「倦怠感」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「頭部痛」</td> <td>「頭部痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「手の痛み」</td> <td>「手の痛み」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「腰腹部痛」</td> <td>「腰腹部痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「記憶障害」</td> <td>「記憶障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「筋力低下」</td> <td>「筋力低下」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>「意識障害」</td> <td>「意識障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	オリエンテーション	科目のオリエンテーション	2	「四肢運動障害」	「四肢運動障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	3	「痛み」	「痛み」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	4	「ふらつき」	「ふらつき」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	5	「呼吸困難」	「呼吸困難」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	6	「嘔気・嘔吐」	「嘔気・嘔吐」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	7	「発熱・不明熱」	「発熱・不明熱」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	8	「腹痛」	「腹痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	9	「倦怠感」	「倦怠感」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	10	「頭部痛」	「頭部痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	11	「手の痛み」	「手の痛み」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	12	「腰腹部痛」	「腰腹部痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	13	「記憶障害」	「記憶障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	14	「筋力低下」	「筋力低下」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。	15	「意識障害」	「意識障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																															
1	オリエンテーション	科目のオリエンテーション																																															
2	「四肢運動障害」	「四肢運動障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
3	「痛み」	「痛み」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
4	「ふらつき」	「ふらつき」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
5	「呼吸困難」	「呼吸困難」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
6	「嘔気・嘔吐」	「嘔気・嘔吐」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
7	「発熱・不明熱」	「発熱・不明熱」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
8	「腹痛」	「腹痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
9	「倦怠感」	「倦怠感」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
10	「頭部痛」	「頭部痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
11	「手の痛み」	「手の痛み」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
12	「腰腹部痛」	「腰腹部痛」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
13	「記憶障害」	「記憶障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
14	「筋力低下」	「筋力低下」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
15	「意識障害」	「意識障害」の病態生理、鑑別診断および各々の疾患の治療法を学ぶ。																																															
事前・事後学習課題	各回のテーマに関する鑑別診断法を事前学習してもらい、まとめをプレゼンテーションしてもらいます。																																																
評価基準	出席、受講態度および課題発表などで総合的に評価する。																																																
教材等	プリント配布																																																
備考																																																	

科目名	薬物治療学特論	科目名 (英文)	Advanced Pharmacotherapeutics
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>臨地で実施される薬物療法に関する知的基盤および実践的能力を身につける。すなわち、適用薬物に関する情報を収集し、そのエビデンスに基づいた薬物治療 (投与量や投与法の選択、投薬後モニタリング、副作用の予防・早期発見等) を実践できる能力を養成する。加えて、患者個々に対する個別的な薬物治療に必要な看護師としての判断について学修する。さらに、臨地における薬物の有効性・安全性の評価について、乳幼児、妊婦、高齢者などの事例を用いて学修する。また、薬物に対する感受性等が高い「小児、妊婦・授乳婦、高齢者」に対する薬物治療の注意点についても論ずる。</p>																																																
到達目標	<p>1. 医薬品の適正使用、医薬品の主作用と副作用 (有害事象)、薬力学と薬物動態、個別医療、インフォームド・コンセント、コンプライアンスとアドヒアランス、薬剤経済学、治験、EBM、小児、妊婦・授乳婦、高齢者の薬物治療の問題点等を指摘できる。</p> <p>2. 各種疾患の薬物治療の理解するために、各種疾患の処方薬の処方薬の有効性、副作用、問題点等を指摘できる。</p>																																																
授業方法と留意点	<p>原則として、授業計画に基づき授業を展開する。授業では、テキスト中心の解説講義に加えて、毎回の授業で課題についての発表・討論を行う。さらに、実践に即した症例を用いた演習型授業も取り入れる。医師の処方の意味や薬剤師の薬剤管理・薬物治療チェックの考え方を学修して、チーム医療への参画を目指す。</p>																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬物治療学総論</td> <td>医薬品の適正使用、医薬品の主作用と副作用 (有害事象)、薬力学と薬物動態、個別医療、インフォームド・コンセント、コンプライアンスとアドヒアランス、薬剤経済学、治療、EBM、小児、妊婦・授乳婦、高齢者の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>心臓・血管系疾患の薬物治療 (1)</td> <td>不整脈、心不全、高血圧、虚血性心疾患等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>心臓・血管系疾患の薬物治療 (2)</td> <td>閉塞性動脈硬化症、心原性ショック等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>血液・造血器系疾患の薬物治療 (1)</td> <td>貧血、血栓・塞栓、DIC等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>血液・造血器系疾患の薬物治療 (2)</td> <td>血友病、紫斑病、白血病、悪性リンパ腫等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消化器系疾患の薬物治療 (1)</td> <td>消化性潰瘍、胃食道逆流症等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>消化器系疾患の薬物治療 (2)</td> <td>胃炎、腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>腎臓・尿路疾患の薬物治療</td> <td>ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、腎不全等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸器・胸部疾患の薬物治療</td> <td>慢性閉塞性肺疾患、気管支ぜん息、肺炎等の薬物治療</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>代謝性疾患の薬物治療 (1)</td> <td>糖尿病、脂質異常症等の薬物治療について学修する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>代謝性疾患の薬物治療 (2)</td> <td>糖尿病、脂質異常症等の薬物治療について学修する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>感染症の薬物治療</td> <td>MRA S、敗血症等の薬物治療について学修する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>悪性腫瘍の薬物治療 (1)</td> <td>胃癌、大腸癌、肝癌等の薬物治療について学修する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>悪性腫瘍の薬物治療 (2)</td> <td>肺癌、前立腺癌、子宮癌、乳癌等の薬物治療について学修する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>アレルギー・免疫疾患の薬物治療</td> <td>アナフィラキシーショック、後天性免疫不全症候群等の薬物治療について学修する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	1	薬物治療学総論	医薬品の適正使用、医薬品の主作用と副作用 (有害事象)、薬力学と薬物動態、個別医療、インフォームド・コンセント、コンプライアンスとアドヒアランス、薬剤経済学、治療、EBM、小児、妊婦・授乳婦、高齢者の薬物治療	2	心臓・血管系疾患の薬物治療 (1)	不整脈、心不全、高血圧、虚血性心疾患等の薬物治療	3	心臓・血管系疾患の薬物治療 (2)	閉塞性動脈硬化症、心原性ショック等の薬物治療	4	血液・造血器系疾患の薬物治療 (1)	貧血、血栓・塞栓、DIC等の薬物治療	5	血液・造血器系疾患の薬物治療 (2)	血友病、紫斑病、白血病、悪性リンパ腫等の薬物治療	6	消化器系疾患の薬物治療 (1)	消化性潰瘍、胃食道逆流症等の薬物治療	7	消化器系疾患の薬物治療 (2)	胃炎、腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病等の薬物治療	8	腎臓・尿路疾患の薬物治療	ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、腎不全等の薬物治療	9	呼吸器・胸部疾患の薬物治療	慢性閉塞性肺疾患、気管支ぜん息、肺炎等の薬物治療	10	代謝性疾患の薬物治療 (1)	糖尿病、脂質異常症等の薬物治療について学修する	11	代謝性疾患の薬物治療 (2)	糖尿病、脂質異常症等の薬物治療について学修する	12	感染症の薬物治療	MRA S、敗血症等の薬物治療について学修する	13	悪性腫瘍の薬物治療 (1)	胃癌、大腸癌、肝癌等の薬物治療について学修する	14	悪性腫瘍の薬物治療 (2)	肺癌、前立腺癌、子宮癌、乳癌等の薬物治療について学修する	15	アレルギー・免疫疾患の薬物治療	アナフィラキシーショック、後天性免疫不全症候群等の薬物治療について学修する
回数	授業テーマ	内容・方法等																																															
1	薬物治療学総論	医薬品の適正使用、医薬品の主作用と副作用 (有害事象)、薬力学と薬物動態、個別医療、インフォームド・コンセント、コンプライアンスとアドヒアランス、薬剤経済学、治療、EBM、小児、妊婦・授乳婦、高齢者の薬物治療																																															
2	心臓・血管系疾患の薬物治療 (1)	不整脈、心不全、高血圧、虚血性心疾患等の薬物治療																																															
3	心臓・血管系疾患の薬物治療 (2)	閉塞性動脈硬化症、心原性ショック等の薬物治療																																															
4	血液・造血器系疾患の薬物治療 (1)	貧血、血栓・塞栓、DIC等の薬物治療																																															
5	血液・造血器系疾患の薬物治療 (2)	血友病、紫斑病、白血病、悪性リンパ腫等の薬物治療																																															
6	消化器系疾患の薬物治療 (1)	消化性潰瘍、胃食道逆流症等の薬物治療																																															
7	消化器系疾患の薬物治療 (2)	胃炎、腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病等の薬物治療																																															
8	腎臓・尿路疾患の薬物治療	ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、腎不全等の薬物治療																																															
9	呼吸器・胸部疾患の薬物治療	慢性閉塞性肺疾患、気管支ぜん息、肺炎等の薬物治療																																															
10	代謝性疾患の薬物治療 (1)	糖尿病、脂質異常症等の薬物治療について学修する																																															
11	代謝性疾患の薬物治療 (2)	糖尿病、脂質異常症等の薬物治療について学修する																																															
12	感染症の薬物治療	MRA S、敗血症等の薬物治療について学修する																																															
13	悪性腫瘍の薬物治療 (1)	胃癌、大腸癌、肝癌等の薬物治療について学修する																																															
14	悪性腫瘍の薬物治療 (2)	肺癌、前立腺癌、子宮癌、乳癌等の薬物治療について学修する																																															
15	アレルギー・免疫疾患の薬物治療	アナフィラキシーショック、後天性免疫不全症候群等の薬物治療について学修する																																															
事前・事後学習課題	<p>事前学修：事前に配布した症例・処方例について、有効性、副作用、問題点等を調べる。</p> <p>事後学修：授業中のグループディスカッションのプロダクトを整理して提出する。</p>																																																
評価基準	<p>授業中の発表・質疑応答、レポート内容、定期試験で評価する。</p> <p>定期試験：50%、授業中の発表・質疑応答の回答内容：30%、レポート：20%</p>																																																
教材等	教科書：「薬がみえる Vol. 1-4」 Medic Media																																																
備考																																																	

科目名	医療経済特論	科目名(英文)	Advanced Healthcare Economics
配当年次	1年	単位数	2
学期(開講期)	前期	授業担当者	田井 義人

授業概要・目的 経済・経営管理の諸理論を理解し、保健・医療・福祉における経済・経営的思考を修得するとともに、政策構築を考察できる力を養う。

到達目標 「認定看護管理者セカンドレベル、サードレベルカリキュラム基準」に準拠し以下の視点からの考察を行う。
 ①保健医療福祉と経済論の視点：医療経済の構造や医療システムについて理解を深め、医療福祉における経済的問題や日本における社会保障と医療経済の関わりからの考察。
 ②ヘルスケアサービスの経営管理・経済性の視点：看護職が提供する看護サービスを効果的かつ効率的な側面から検討するための経営管理の視点や市場性・適正配置などの経済原理の視点からの考察。看護業務に関連する周辺業務である人事・物品・情報・時間等の管理における経済性からの考察。
 ③看護経営の今後のあり方の視点：訪問看護ステーション・助産院の経営管理の視点からのマネジメントや医療や福祉分野等での看護師業務の多様な就業形態の考察。

授業方法と留意点 [講義方法]
 原則として、授業計画に基づき授業を行う。授業に使用するテキストは「医療の経済学」「見える化 医療経済学入門」を使用し、授業計画に沿って事前に学生にレジメの作成を求める。レジメの報告と追加資料による議論を行う。議論の際に、質問と授業への感想や要望及び意見を聴取し、授業の内容と進め方に反映させる。医療に関わる実践例を用いたビデオ教材等を活用して学生が理解できるように工夫する。さらに、興味のある内容については、質問票を設け、次の授業で議論するなど学生の学修を助ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等
1	・オリエンテーション ・序章 日本の医療制度の枠組みと政策課題	・医療制度の目的、医療提供体制と医療保障制度、日本の医療供給体制、平均的な医療サービス市場のイメージ、日本の医療保障制度、公的医療保険から医療機関への医療費支払いの仕組み、私的財・価値財・公共財の特性、効率性と平等性のトレードオフ。
2	病院ランキングは役立つか —情報の非対称性—	1: 広告規制、病院ランキング本 2: 情報の非対称性、情報生産、シグナリング 3: 情報公開、病院ランキングの有効性 4: 日本の第三者評価と情報生産
3	医療サービスと自由競争	1: 多くの規制がなぜ必要なのか 2: 情報の非対称性、レモン市場、市場の失敗 3: 規制の目的と効果 4: 市場の失敗か政府の失敗か
4	患者はかかりつけ医を持つべきか—エージェンシー問題—	1: 家庭医制度、高齢者担当医制度 2: エージェンシー問題、契約の失敗 3: 受診決定のちがひ、GP契約の手法 4: 家庭医制度の是非
5	病床規制はなぜ維持されたのか—供給者誘発需要仮説—	1: 病床規制 2: 供給者誘発需要仮説 3: 供給者誘発需要は実際に存在するの 4: 競争促進と医療費抑制のジレンマ
6	社会的入院は解消できるか—サービスの代替補充関係—	1: 社会的入院、介護保険制度 2: 超過需要、割当、代替材 3: 社会的入院の費用、介護保険の節減効果 4: 補充財を代替財として利用
7	公的医療保険はなぜ必要か—需要の不確実性と逆選択—	1: 公的医療保険への強制加入 2: 保険の機能、リスク選択、プーリング均衡 3: プーリング均衡から分離均衡への移行 4: 社会保険方式のメリットとデメリット
8	診療報酬改訂は伝家の宝刀か—保険償還の仕組みと経済的誘因—	1: 医療機関の経営と公的医療保険制度 2: 支払い方式の変更、独占的競争 3: 公定価格の水準および支払い単位の変更 4: 公定価格の水準と支払い単位の変更
9	混合診療解禁のメリット・デメリット—医療制度の効率性と公平性—	1: 混合診療禁止のルール 2: 医療資源の配分と公平性、モラルハザード 2: 医療資源の配分と公平性、モラルハザード 3: 民間保険の利用と健康格差 4: 効率性と公平性のバランス
10	「医師不足」は定員増加で解決できるか—ニーズアプローチの限界—	1: 医師不足、医療崩壊 2: 2つのアプローチ(ニーズとシーズ) 3: 2つのアプローチの比較 4: ニーズアプローチの限界
11	「終末期医療」は無駄なのか—日本人の死生観—	1: 終末期をめぐる論争 2: 煙草論争 3: 日本で RED HERRING 仮説は支持されるか 4: 各国で異なる死生観
12	視界ゼロを脱するか DPC/PDPS—今後の政策・運営方針への示唆—	1: “見える化”できない DPC 2: CMI は利用可能か 3: 在院日数短縮と病床利用率のバランス 4: 解消すべき2つの課題 5: ACG は日本になじむのか
13	“医療の見える化”の現状と課題	1: 求められる“医療の質の向上と効率化” 2: P4Pの先行事例 3: 草の根から努めた“病院可視化ネットワーク” 4: P4Pによる行動変容はあるのか 5: 病院・医師は変えるのか 6: 技術革新の検証 7: 質の向上と効率化の同時達成 8: P4Pの前にP4R
14	どこまで公的医療保険で面倒みるか	1: 透明性が増した保険収載プロセス 2: 懸案の未収載品の取扱 3: “デビルの川”と“死の谷” 4: 基準が曖昧な“昇格”手続き 5: 自由放任でいいのか
15	地域包括ケアは連携か“範囲の経済”か	1: アメリカのデレイトカラムにみる先行事例 2: リベリにみる医療・介護の連携 3: 大腿骨頸部骨折治療にみる実証研究 4: 主たる知見 5: 経営改善したいのか訪問看護 ST・助産院 6: “口から食べたい”を支える歯科医師との連携

事前・事後学習課題 事前に作成するレジメ及びレジメによる発表内容、議論や講義内で作成を求めるレポート、質問に対する回答の結果を基に、総合的に評価する。

評価基準 定期試験なし。講義での回答内容 50 パーセント。レポート 50 パーセント。

教材等
 ・「医療の経済学 第2版」 河川 洋行著 日本評論社
 ・「見える化」医療経済学入門 川淵 孝一 医歯薬出版株式会社
 ・人にやさしい医療の経済学 森 宏一郎 信山社

備考

科目名	地域医療防災演習	科目名 (英文)	Advanced Studies of Public Health Management of
配当年次	1年	単位数	1
学期 (開講期)	通年	授業担当者	池内 淳子・神 愛・高田 洋介

授業概要・目的	被災地において被災者の健康維持支援を行う看護師・助産師の役割について学ぶ。はじめに自然災害の発生原因について学習し、拠点施設の室内空間構成や被害事例について、また、都市における拠点施設の空間分布等について理解を深める。次に、阪神・淡路大震災や東日本大震災における事例を基に、災害看護および被災者・支援者のメンタルケアの重要性を理解する。地域での避難所運営訓練等に参画することで、地域防災に寄与する看護師・助産師としての知識・技能を身につける。 (1) 地震・津波など自然災害や拠点施設となる病院の被害事例について学ぶ。北河内医療圏の構成 (人口など) について理解する。 (2) 生活空間の寸法 (椅子や机など) について、また、都市における公共建物の空間分布特性と暮らしの関係について学ぶ。 (3) 阪神・淡路大震災や東日本大震災、また、その他の自然災害時における被災者の健康管理について学ぶ。 (4) 避難所運営訓練や被災者の健康管理を目的とした研修に参画することで、地域医療に携わる医療従事者の役割を学ぶ。																																																
到達目標	1) 自然災害の発生原因について、拠点施設の室内空間構成や被害事例について説明できる。 2) 都市における拠点施設の空間分布等について理解する。 3) 阪神・淡路大震災や東日本大震災における事例を基に、災害看護および被災者・支援者のメンタルケアについて説明できる。 4) 地域での避難所運営訓練等に参画することで、地域防災に寄与する看護師・助産師としての知識・技能を身につける。																																																
授業方法と留意点	第1回～第9回の講義では、毎回配布される資料を基に学び、必要に応じてレポートをまとめる。また、講義では地域活動の際の心構えや準備の重要性についても学ぶ。第10回～第14回では、地域における学外活動として避難所運営訓練や健康管理を目的とした研修の運営に携わり、医療従事者の役割を学ぶ。活動後は振り返りのためレポート作成を行う。第15回目は、総括として災害後の被災者の健康管理支援について、自分の活動をまとめ、意見を述べる。																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自然災害を知る</td> <td>地震・津波・洪水・土砂崩れ・台風・竜巻等自然災害について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病院被害と病院防災</td> <td>拠点施設となる病院の建築的成り立ちと構造、被害事例について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>室内空間の成り立ちと人間工学に基づく寸法</td> <td>椅子や机・ベッドの高さや大きさ等の寸法について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>都市における拠点施設の空間分布を知るためのワーク</td> <td>都市における駅や公共建物の配置を学び、空間分布特性を知る</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>拠点施設の空間分布と暮らし</td> <td>都市の空間分布特性と人の暮らしの関係</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>阪神・淡路大震災における地域医療</td> <td>阪神・淡路大震災時における被災者の健康管理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>東日本大震災における地域医療</td> <td>東日本大震災時における被災者の健康管理</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>その他の自然災害における地域医療</td> <td>その他の自然災害における被災者の健康管理</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>北河内地域の医療圏について</td> <td>学外活動に伴う事前調査 (町の空間構成・居住人口・医療圏)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修1</td> <td>学外活動1 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修2</td> <td>学外活動2 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修3</td> <td>学外活動3 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修4</td> <td>学外活動4 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修5</td> <td>学外活動5 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>災害後の被災者の健康管理支援—地域復興へ—</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	1	自然災害を知る	地震・津波・洪水・土砂崩れ・台風・竜巻等自然災害について学ぶ	2	病院被害と病院防災	拠点施設となる病院の建築的成り立ちと構造、被害事例について学ぶ	3	室内空間の成り立ちと人間工学に基づく寸法	椅子や机・ベッドの高さや大きさ等の寸法について学ぶ	4	都市における拠点施設の空間分布を知るためのワーク	都市における駅や公共建物の配置を学び、空間分布特性を知る	5	拠点施設の空間分布と暮らし	都市の空間分布特性と人の暮らしの関係	6	阪神・淡路大震災における地域医療	阪神・淡路大震災時における被災者の健康管理	7	東日本大震災における地域医療	東日本大震災時における被災者の健康管理	8	その他の自然災害における地域医療	その他の自然災害における被災者の健康管理	9	北河内地域の医療圏について	学外活動に伴う事前調査 (町の空間構成・居住人口・医療圏)	10	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修1	学外活動1 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)	11	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修2	学外活動2 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)	12	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修3	学外活動3 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)	13	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修4	学外活動4 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)	14	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修5	学外活動5 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)	15	総括	災害後の被災者の健康管理支援—地域復興へ—
回数	授業テーマ	内容・方法等																																															
1	自然災害を知る	地震・津波・洪水・土砂崩れ・台風・竜巻等自然災害について学ぶ																																															
2	病院被害と病院防災	拠点施設となる病院の建築的成り立ちと構造、被害事例について学ぶ																																															
3	室内空間の成り立ちと人間工学に基づく寸法	椅子や机・ベッドの高さや大きさ等の寸法について学ぶ																																															
4	都市における拠点施設の空間分布を知るためのワーク	都市における駅や公共建物の配置を学び、空間分布特性を知る																																															
5	拠点施設の空間分布と暮らし	都市の空間分布特性と人の暮らしの関係																																															
6	阪神・淡路大震災における地域医療	阪神・淡路大震災時における被災者の健康管理																																															
7	東日本大震災における地域医療	東日本大震災時における被災者の健康管理																																															
8	その他の自然災害における地域医療	その他の自然災害における被災者の健康管理																																															
9	北河内地域の医療圏について	学外活動に伴う事前調査 (町の空間構成・居住人口・医療圏)																																															
10	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修1	学外活動1 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)																																															
11	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修2	学外活動2 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)																																															
12	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修3	学外活動3 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)																																															
13	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修4	学外活動4 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)																																															
14	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修5	学外活動5 (避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修)																																															
15	総括	災害後の被災者の健康管理支援—地域復興へ—																																															
事前・事後学習課題	<p>【事前学習】 1～9回目：これまでの日本における自然災害に対し、災害医療・健康福祉・被災者ケアに関して興味のある資料・書籍等を読み込む。事前配布された資料を読み込み、講義中の質問や議論等の準備を行う。 10～14回目：地域活動のリハーサル等にも積極的に参加し、地域活動実施の効果を向上させるための準備を行う。 15回目：これまでの講義内容を踏まえ、災害後の被災者の健康管理支援に関してプレゼン資料をまとめる。</p> <p>【事後学習】 1～9回目：講義内容を復習し、次回の講義での質問や議論等の準備を行う。 講義内容と自分の専門分野との関連について、10～14回目の地域活動での学び、および15回目のプレゼンとしてまとめられるように整理する。 10～14回目：地域活動で得た知見をメモとして電子データ等にまとめておく。 15回目：プレゼンを通じて得た意見、また、他受講生の意見を踏まえ、自分の専門分野の学びに活用できるよう、知見をまとめる。</p>																																																
評価基準	第1回～第9回の講義中の質問に対する回答やレポート等を30%で評価する。また、学外活動時の分担業務に対する対応の積極性および学外活動後のレポートを50%で評価する。さらに、15回目のプレゼンテーションを20%で評価する。																																																
教材等	【参考資料】「災害に強い病院であるために」 福田幾夫・池内淳子・鶴飼卓 (株) 医薬ジャーナル社																																																
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・10～14回の学外活動の日程は不定期であるが、授業や病院研修の妨げにならない日程に参加する (主に、土曜日や日曜日)。 ・本講義は、看護師・助産師を目指す学生にとって、災害時の医療従事者の役割を多角的に、実践的に学ぶ機会として位置付けている。 ・本講義は、神 愛 (摂南大学理工学部住環境デザイン学科) および高田洋介 (人と防災未来センター研究員) で分担して実施する。 																																																

科目名	看護人間工学特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing Ergonomics
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	人間工学は、人間の心理、生理、身体の諸特性を踏まえ、それらの観点から機器の設計や人間の動作解析などを行う学問である。本科目では、まず人間工学の基礎知識や方法論などを学修し、次いで看護や介護の場における人間工学の役割、医療機器・介護機器などのユーザビリティ評価方法、看護・介護に必要な動作の解析評価方法などについて理解する。																																																	
到達目標	1) 人間工学の定義、目的を説明できる 2) 看護における人間工学の役割が理解できる 3) 医療機器・介護機器などのユーザビリティ評価が理解できる 4) 看護・介護に必要な動作の解析評価方法が理解できる 5) 生体計測、ボディメカニクスが理解できる 6) ヒューマンエラーが理解できる																																																	
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき授業を展開する。毎回、講義プリントおよび予習・復習プリントを用意し配布する。さらに学生の質問と授業への感想、要望をとり、授業の内容と進め方に反映させる。 人間工学は実践的学問であるため、毎回、身近な事例を挙げて、学生の理解を促す。通常は座学形式で進めるが、必要に応じて輪講形式や討論、またはプレゼンテーション形式で行う。看護人間工学は、将来、看護職や介護職に就く人にとって、実際に役立つものであるため、各テーマ、各課題に対して自らの考えがしっかり身に付くように工夫する。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人間工学の基礎</td> <td>人間工学の定義、看護・介護における人間工学の役割</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間の身体的特性</td> <td>身長、体重、体型、肢体寸法、データベース、デジタルヒューマンモデル</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人間の生理・心理特性</td> <td>血流特性、疲労特性、認知特性、錯覚、反応時間、記憶特性</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間工学の方法論</td> <td>生体計測の概要、パーセンタイル、ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェース</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>看護人間工学と看護師</td> <td>看護・介護業務と人間工学、作業動作、ME 機器・電子カルテの扱い、薬剤の扱い</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>看護人間工学と患者</td> <td>入院患者の生活、患者の移動・移乗、快適性、安楽</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>介護・福祉機器</td> <td>車いす、介護ベッド、白杖、拡大鏡、補聴器、義手、義足</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ユーザビリティ評価</td> <td>ヒューマンインタフェース、医療機器、介護機器、福祉機器</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>生体計測 (1)</td> <td>身体寸法測定、モーションキャプチャ、ECG、HRV、EMG、EOG、EEG、GSR</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>生体計測 (2)</td> <td>精神負担計測、疲労計測、 CFF、NASA-TLX</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ボディメカニクス (1)</td> <td>力学、力、モーメント、重力、人体モデル、腰痛</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ボディメカニクス (2)</td> <td>看護・介護の姿勢・動作解析、看護・介護の力学的負担、負担の軽減</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ヒューマンエラー (1)</td> <td>ヒューマンエラーの基礎、ヒューマンエラーの事例、ヒューマンエラーの分類</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ヒューマンエラー (2)</td> <td>ヒューマンエラーの対策、フルプルーフ、フェイルセーフ、ヒヤリ・ハット</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>看護と人間工学まとめ</td> <td>看護・介護業務の人間工学的見方、人間工学的手法、人間工学的改善</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法等	1	人間工学の基礎	人間工学の定義、看護・介護における人間工学の役割	2	人間の身体的特性	身長、体重、体型、肢体寸法、データベース、デジタルヒューマンモデル	3	人間の生理・心理特性	血流特性、疲労特性、認知特性、錯覚、反応時間、記憶特性	4	人間工学の方法論	生体計測の概要、パーセンタイル、ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェース	5	看護人間工学と看護師	看護・介護業務と人間工学、作業動作、ME 機器・電子カルテの扱い、薬剤の扱い	6	看護人間工学と患者	入院患者の生活、患者の移動・移乗、快適性、安楽	7	介護・福祉機器	車いす、介護ベッド、白杖、拡大鏡、補聴器、義手、義足	8	ユーザビリティ評価	ヒューマンインタフェース、医療機器、介護機器、福祉機器	9	生体計測 (1)	身体寸法測定、モーションキャプチャ、ECG、HRV、EMG、EOG、EEG、GSR	10	生体計測 (2)	精神負担計測、疲労計測、 CFF、NASA-TLX	11	ボディメカニクス (1)	力学、力、モーメント、重力、人体モデル、腰痛	12	ボディメカニクス (2)	看護・介護の姿勢・動作解析、看護・介護の力学的負担、負担の軽減	13	ヒューマンエラー (1)	ヒューマンエラーの基礎、ヒューマンエラーの事例、ヒューマンエラーの分類	14	ヒューマンエラー (2)	ヒューマンエラーの対策、フルプルーフ、フェイルセーフ、ヒヤリ・ハット	15	看護と人間工学まとめ	看護・介護業務の人間工学的見方、人間工学的手法、人間工学的改善
回数	授業テーマ	内容・方法等																																																
1	人間工学の基礎	人間工学の定義、看護・介護における人間工学の役割																																																
2	人間の身体的特性	身長、体重、体型、肢体寸法、データベース、デジタルヒューマンモデル																																																
3	人間の生理・心理特性	血流特性、疲労特性、認知特性、錯覚、反応時間、記憶特性																																																
4	人間工学の方法論	生体計測の概要、パーセンタイル、ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェース																																																
5	看護人間工学と看護師	看護・介護業務と人間工学、作業動作、ME 機器・電子カルテの扱い、薬剤の扱い																																																
6	看護人間工学と患者	入院患者の生活、患者の移動・移乗、快適性、安楽																																																
7	介護・福祉機器	車いす、介護ベッド、白杖、拡大鏡、補聴器、義手、義足																																																
8	ユーザビリティ評価	ヒューマンインタフェース、医療機器、介護機器、福祉機器																																																
9	生体計測 (1)	身体寸法測定、モーションキャプチャ、ECG、HRV、EMG、EOG、EEG、GSR																																																
10	生体計測 (2)	精神負担計測、疲労計測、 CFF、NASA-TLX																																																
11	ボディメカニクス (1)	力学、力、モーメント、重力、人体モデル、腰痛																																																
12	ボディメカニクス (2)	看護・介護の姿勢・動作解析、看護・介護の力学的負担、負担の軽減																																																
13	ヒューマンエラー (1)	ヒューマンエラーの基礎、ヒューマンエラーの事例、ヒューマンエラーの分類																																																
14	ヒューマンエラー (2)	ヒューマンエラーの対策、フルプルーフ、フェイルセーフ、ヒヤリ・ハット																																																
15	看護と人間工学まとめ	看護・介護業務の人間工学的見方、人間工学的手法、人間工学的改善																																																
事前・事後学習課題	次回の授業テーマに関する予習プリントを配布するので、事前に目を通し、予習を行うこと。また、授業で扱ったテーマに関して復習課題を出すので、次回までに取り組んでレポートを提出すること。																																																	
評価基準	看護・介護のための人間工学に関するレポート、講義中の質問に対する回答および定期試験の結果を基に、総合的に評価する。定期試験 50%、講義での回答内容 30%、レポート 20%																																																	
教材等	参考書 イラストで学ぶ看護人間工学 小川 鑣一 東京電機大学出版局 看護・介護のための人間工学入門 小川 鑣一、大久保 祐子 他 東京電機大学出版局																																																	
備考																																																		

科目名	看護教育特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing Education
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	神戸 美輪子

授業概要・目的	現代における看護教育の課題と解決方法を探究し、看護教育の教授活動を展開するために必要な基本的知識を修得することを目的とする。																																																		
到達目標	まず看護教育に関わる立場から、教育学の基礎理論である教育原理や成人教育理論の知的基盤を学ぶ。その上で、看護基礎教育における看護教育課程の編成、授業設計、教育方法、評価方法について理解する。																																																		
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき授業を展開する。授業では一方的な講義に終わることなく、双方向のディスカッションを行うことでより理解を深められるよう進めていく。 看護教育に関する内容については「看護教育学」をテキストとして用い、授業までに予習を促すようにする。教育学の基礎理論については作成した教材を用いて、教育原理と成人教育理論を中心に基礎的な理解ができるよう促す。 看護教員や看護職者として教育的関わりの基礎・基盤となる知識理解を獲得することで、看護教育のあり方や課題、その解決方法まで目を向けることができるように促していく。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育とは何か(1)</td> <td>代表的な教育観と重要人物(1)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教育とは何か(2)</td> <td>代表的な教育観と重要人物(2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>成人教育の基礎知識(1)</td> <td>アンドラゴジーとペタゴジー</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>成人教育の基礎知識(2)</td> <td>成人の学習ニーズと成人教育者の役割</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>教育課程の基礎理論(1)</td> <td>教育課程構造の重要性</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>教育課程の基礎理論(2)</td> <td>学習のレディネスと動機づけ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>看護教育課程の編成(1)</td> <td>看護教育課程の編成に関する基本的理解</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>看護教育課程の編成(2)</td> <td>看護教育課程の編成の実際</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>看護教育における授業設計(1)</td> <td>授業を設計するための基本的事項の理解</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>看護教育における授業設計(2)</td> <td>看護教育における授業展開</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>看護教育における授業設計(3)</td> <td>臨地における看護学実習展開</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>看護教育における授業設計(4)</td> <td>教育の技法と指導の実際</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>看護教育評価(1)</td> <td>教育評価とは何か</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>看護教育評価(2)</td> <td>授業と看護学実習の評価</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>教育力向上のための取り組み</td> <td>ファカルティ・ディベロップメント (FD) と教育者としての成長</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	教育とは何か(1)	代表的な教育観と重要人物(1)	2	教育とは何か(2)	代表的な教育観と重要人物(2)	3	成人教育の基礎知識(1)	アンドラゴジーとペタゴジー	4	成人教育の基礎知識(2)	成人の学習ニーズと成人教育者の役割	5	教育課程の基礎理論(1)	教育課程構造の重要性	6	教育課程の基礎理論(2)	学習のレディネスと動機づけ	7	看護教育課程の編成(1)	看護教育課程の編成に関する基本的理解	8	看護教育課程の編成(2)	看護教育課程の編成の実際	9	看護教育における授業設計(1)	授業を設計するための基本的事項の理解	10	看護教育における授業設計(2)	看護教育における授業展開	11	看護教育における授業設計(3)	臨地における看護学実習展開	12	看護教育における授業設計(4)	教育の技法と指導の実際	13	看護教育評価(1)	教育評価とは何か	14	看護教育評価(2)	授業と看護学実習の評価	15	教育力向上のための取り組み	ファカルティ・ディベロップメント (FD) と教育者としての成長
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																	
1	教育とは何か(1)	代表的な教育観と重要人物(1)																																																	
2	教育とは何か(2)	代表的な教育観と重要人物(2)																																																	
3	成人教育の基礎知識(1)	アンドラゴジーとペタゴジー																																																	
4	成人教育の基礎知識(2)	成人の学習ニーズと成人教育者の役割																																																	
5	教育課程の基礎理論(1)	教育課程構造の重要性																																																	
6	教育課程の基礎理論(2)	学習のレディネスと動機づけ																																																	
7	看護教育課程の編成(1)	看護教育課程の編成に関する基本的理解																																																	
8	看護教育課程の編成(2)	看護教育課程の編成の実際																																																	
9	看護教育における授業設計(1)	授業を設計するための基本的事項の理解																																																	
10	看護教育における授業設計(2)	看護教育における授業展開																																																	
11	看護教育における授業設計(3)	臨地における看護学実習展開																																																	
12	看護教育における授業設計(4)	教育の技法と指導の実際																																																	
13	看護教育評価(1)	教育評価とは何か																																																	
14	看護教育評価(2)	授業と看護学実習の評価																																																	
15	教育力向上のための取り組み	ファカルティ・ディベロップメント (FD) と教育者としての成長																																																	
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復習																																																		
評価基準	授業の進行に合わせて、テーマに関するレポート課題を課し、評価の対象とする。 レポート：100%																																																		
教材等	教科書	看護教育学 (第6版) 杉森みど里, 舟島なをみ 医学書院																																																	
	参考書	よくわかる教育原理 汐見稔幸 他 ミネルヴァ書房																																																	
	参考書	成人期の学習—理論と実践— シャラン・B. メリアム 他 鳳書房																																																	
	参考書	看護学教育における授業展開 舟島なをみ 医学書院																																																	
備考																																																			

科目名	看護教育方法演習	科目名 (英文)	Nursing Education Method Seminar
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	通年	授業担当者	神戸 美輪子, 中山 由美

授業 (指導) 概要・目的	看護教育制度を支える法および関連法規をもとに、看護教育制度の特徴を理解し、看護学教育課程構築の基礎を学ぶ。		
到達目標	まず、看護教育課程の歴史の変遷を学校教育制度と看護師養成教育の2つの側面から理解する。次に、今日の看護教育の現状と課題について検討し、質の高い看護を提供できる人材を育むための教育実践の方法論として、講義・臨地実習指導のあり方、授業展開の計画、方法、評価方法について検討する。		
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき授業を展開する。授業では演習を主とし、教員はファシリテーターとして受講生同志の討論に参加し、一人ひとりが理解を深められるように進めていく。 看護教育制度を支える法、看護教育課程の編成など基礎的理解が必要な事項については「看護教育学」をテキストとして用い、授業までに予習を促すようにする。本科目は、ピア・ラーニングを主として進め、互いの討論から自身の教育的活動を省察することで、今後の教育実践に活用できるよう教員は意図的に関わる。		
授業 (指導) 計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方</p> <p>第2, 3回 看護教育課程の特徴 看護教育制度を支える法と関連法規・看護教育課程の変遷</p> <p>第4回 看護教育の現状と課題(1) 看護基礎教育における教育実践 (学内講義と演習の現状と課題/討論)</p> <p>第5回 看護教育の現状と課題(2) 看護基礎教育における教育実践 (臨地実習指導の現状と課題/討論)</p> <p>第6, 7回 教育課程の編成(1) 教育理念と教育目標、ディプロマ・ポリシーの明文化 (ワーク)</p> <p>第7回 教育課程の編成(2) 教育課程のデザインと科目目標の設定 (ワーク)</p> <p>第8~11回 教育課程の編成について 発表と討議</p> <p>第12~28回 授業設計と模擬授業</p> <p>受講生の人数を勘案し模擬授業の担当回を割り振るが、 ①学内講義を想定して、講義あるいは演習に関するテーマを選定、単元目標の設定、教材研究と指導案作成、評価について各自取り組み、模擬授業を実施する。 ②臨地実習の1領域を選定し、指導案を作成し発表する、という2つの課題を課す。どちらの発表についても全員で討議を行い、意見交換で出された内容を再度吟味し、修正した指導案を提出する。</p> <p>第29, 30回 まとめ 人材育成のための講義・臨地実習指導のあり方、授業展開の計画、方法、評価方法について、発表に基づいたまとめのディスカッションを行う。</p>		
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復習		
評価基準	ワークや指導案の作成、模擬授業や学生間の討議状況と、終了後のレポート課題から評価する。 模擬授業についての評価は、ピア評価を含む。 終了後のレポート課題のテーマ等については、講義の中で提示する。 指導案等の作成物・模擬授業・討議の参加状況：70% (ピア評価含む) レポート：30%		
教材等	教科書	看護学教育における授業展開	舟島なをみ 医学書院
	参考書	看護教育学 (第6版)	杉森みどり, 舟島なをみ 医学書院
	参考書	看護教育における授業設計	佐藤みつ子 医学書院
	参考書	学生とともに創る臨床実習指導ワークブック	藤岡 完治 医学書院
備考			

科目名	看護現任教育特論	科目名 (英文)	Advanced Incumbent Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	神戸 美輪子, 中山 由美

授業概要・目的	看護職者の特性を理解して、その学習ニーズと看護継続教育についての現任教育のあり方について理解する。現任教育の現状と課題を明らかにした上で、成人学習者である看護職者を対象とした院内教育の計画立案、教育方法、評価方法について検討する。 (1) 看護職者を成人学習者としてとらえ、各ライフステージにおける学習ニーズおよび現任教育の現状と課題について、事例や文献などを用いて検討し、看護継続教育のあり方について考察を行う。 (2) 新人看護師から中堅期以降の看護師を対象とした現任教育における教育的支援の現状と課題について、事例や文献などを用いて検討し、現任教育のあり方について考察を行う。																																																		
到達目標	看護専門職者の現任教育を生涯学習体系の中に位置付け、新人看護職員研修、キャリア支援も含む実践と成長を支える教育的支援などの現任教育の現状と課題を明らかにした上で、教育的視座から現任教育をとらえる。成人学習者である看護職者を対象に、看護師自身の教育ニーズについてとらえながら、成人教育に必要な基礎的理論をふまえ、院内教育の計画立案、教育方法、評価方法について検討する。																																																		
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づきオムニバスで授業を展開する。授業では、現任教育に関連する基礎的理解が必要な事項について、適宜研究論文や書籍を紹介し予習を促す。それぞれのテーマに関連する文献を概説した後、学生間で討議し理解を深める。自身の経験や既習の理論等を活用して、看護実践場面での教育とその課題について、具体的かつ今後の教育・研究・実践活動につなげられるよう、予習しておくことが求められる。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生涯学習の考え方</td> <td>生涯学習に関する理論</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キャリア・ディベロップメント</td> <td>Scheinのキャリア・アンカー理論ほか</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>大人の学習を支える諸理論の理解</td> <td>成人教育の諸理論</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>看護師の現任教育</td> <td>ベナー看護論と現任教育</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現任教育の現状と課題(1)</td> <td>看護基礎教育から現任教育へ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現任教育の現状と課題(2)</td> <td>新人看護師に対する教育的課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>現任教育の現状と課題(3)</td> <td>新人看護師の教育的支援のあり方</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>現任教育の現状と課題(4)</td> <td>ライフステージと専門職としての現任教育</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>現任教育の現状と課題(5)</td> <td>潜在看護師の復職研修</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>現任教育の現状と課題(6)</td> <td>中堅期以降の課題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>現任教育の現状と課題(7)</td> <td>現任教育への組織的取り組み</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>看護職者の学習ニーズと現任教育(1)</td> <td>新人期の学習ニーズと現任教育に関する研究論文から</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>看護職者の学習ニーズと現任教育(2)</td> <td>中堅期以降の学習ニーズと現任教育に関する研究論文から</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>看護師自身の教育ニーズをとらえながら、成人教育に必要な基礎的理論をふまえ、院内教育の計画立案、教育方法、評価方法などについての要点を整理する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	オリエンテーション	授業の進め方	2	生涯学習の考え方	生涯学習に関する理論	3	キャリア・ディベロップメント	Scheinのキャリア・アンカー理論ほか	4	大人の学習を支える諸理論の理解	成人教育の諸理論	5	看護師の現任教育	ベナー看護論と現任教育	6	現任教育の現状と課題(1)	看護基礎教育から現任教育へ	7	現任教育の現状と課題(2)	新人看護師に対する教育的課題	8	現任教育の現状と課題(3)	新人看護師の教育的支援のあり方	9	現任教育の現状と課題(4)	ライフステージと専門職としての現任教育	10	現任教育の現状と課題(5)	潜在看護師の復職研修	11	現任教育の現状と課題(6)	中堅期以降の課題	12	現任教育の現状と課題(7)	現任教育への組織的取り組み	13	看護職者の学習ニーズと現任教育(1)	新人期の学習ニーズと現任教育に関する研究論文から	14	看護職者の学習ニーズと現任教育(2)	中堅期以降の学習ニーズと現任教育に関する研究論文から	15	まとめ	看護師自身の教育ニーズをとらえながら、成人教育に必要な基礎的理論をふまえ、院内教育の計画立案、教育方法、評価方法などについての要点を整理する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																	
1	オリエンテーション	授業の進め方																																																	
2	生涯学習の考え方	生涯学習に関する理論																																																	
3	キャリア・ディベロップメント	Scheinのキャリア・アンカー理論ほか																																																	
4	大人の学習を支える諸理論の理解	成人教育の諸理論																																																	
5	看護師の現任教育	ベナー看護論と現任教育																																																	
6	現任教育の現状と課題(1)	看護基礎教育から現任教育へ																																																	
7	現任教育の現状と課題(2)	新人看護師に対する教育的課題																																																	
8	現任教育の現状と課題(3)	新人看護師の教育的支援のあり方																																																	
9	現任教育の現状と課題(4)	ライフステージと専門職としての現任教育																																																	
10	現任教育の現状と課題(5)	潜在看護師の復職研修																																																	
11	現任教育の現状と課題(6)	中堅期以降の課題																																																	
12	現任教育の現状と課題(7)	現任教育への組織的取り組み																																																	
13	看護職者の学習ニーズと現任教育(1)	新人期の学習ニーズと現任教育に関する研究論文から																																																	
14	看護職者の学習ニーズと現任教育(2)	中堅期以降の学習ニーズと現任教育に関する研究論文から																																																	
15	まとめ	看護師自身の教育ニーズをとらえながら、成人教育に必要な基礎的理論をふまえ、院内教育の計画立案、教育方法、評価方法などについての要点を整理する。																																																	
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復習																																																		
評価基準	学生間の討議状況と、レポートの内容から評価する。 レポートは、授業の進行に合わせて適宜テーマを提示する。 授業での討議状況：50% レポート：50%																																																		
教材等	参考書 ベナー・ナースを育てる バトリシア・ベナー 医学書院 参考書 看護師のキャリア論 勝原裕美子 ライフサポート社 参考書 キャリア・アンカー エドガー・H. シャイン 白桃書房 参考書 看護現場で使える教育学の理論と技法 中井俊樹 メディカ出版																																																		
備考																																																			

科目名	療養生活支援看護学特論	科目名 (英文)	Advanced Adults Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	田中 結華, 稲垣 美紀, 竹下 裕子

授業概要・目的	療養する人々とその家族、その療養生活を理解し、支援するための理論や概念を検討し、実践と研究への適用を探究する。様々な疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々への看護活動に関する研究への関心と探究力を養う。		
到達目標	<p>(1) 療養する人々・家族と療養生活を理解し、支援するための理論、概念を、論文を通して検討し、実践と研究への理解、探究心を養う。</p> <p>(2) 様々な疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々への看護活動に関する理論を、論文を通して検討し、研究への関心と探究力を養う。</p> <p>(3) がん患者やその家族に適用できる理論やモデルについて理解を深め、急性期から慢性期、終末期にかけて、がん患者の苦痛が軽減され療養生活の質を維持向上できるような家族も含めて支援するための看護実践について、発表や討論を通して考察する。</p>		
授業方法と留意点	第1回は、授業全体のオリエンテーションとともに、授業のテーマを概観し、教員から解説を行う。第2回以降は、ゼミ形式で行い、授業計画に示すテーマに沿って学生が主体的に選択した文献をもとに発表し、全員で討議を行う。討議では実践と研究への適用に向けて学生各自が思考して発言を行い、議論を活性化させる。授業では既存の考え方を学ぶだけでなく、研究的視点からテーマについて解釈・吟味して自己の考えをまとめ、療養する人々とその家族の支援に向けて問題意識を明確化する。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	オリエンテーション 療養する人々とその家族、生活の理解について概観する	授業のオリエンテーションを行う。 療養する人々とその家族、生活を理解し、どのような困難、課題があるかをとらえる理論とその意義について概観する。さらに対象理解のあり方、および発表と討議のあり方について理解する。
	2	慢性疾患をもつ人々を理解する (1)	慢性疾患をもつ人々を理解するための理論について、文献学習および討議を通して理解を深める
	3	慢性疾患をもつ人々を理解する (2)	慢性疾患をもつ人々を理解するための理論について、文献学習および討議を通して理解を深める
	4	慢性疾患をもつ人の家族を理解する	慢性疾患をもつ人の家族を理解するための理論について、文献学習および討議を通して理解を深める
	5	慢性の疾患をもつ人々と家族が必要としている支援について検討する	慢性疾患をもつ人々と家族への理解をもとに、クライアントが求める支援とは何かについて討議し、理論の実践および研究への適用を探究する
	6	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を支援するための理論 (1)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を理解するための諸理論について、文献学習および討議を通して理解を深める
	7	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を支援するための理論 (2)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を理解するための諸理論について、文献学習および討議を通して理解を深める
	8	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を支援するための理論 (3)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を理解するための諸理論について、文献学習および討議を通して理解を深める
	9	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を支援するための理論 (4)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を理解するための諸理論について、文献学習および討議を通して理解を深める
	10	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族を支援するための理論 (5)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族の理解をもとに、支援に関する諸理論および実践・研究への適用について、文献学習および討議を通して検討する
	11	がん疾患をもつ人々とその家族を理解する (1)	がん疾患をもつ人々とその家族を理解するための諸理論について、文献学習、討議を通して理解を深める
	12	がん疾患をもつ人々とその家族を理解する (2)	がん疾患をもつ人々とその家族を理解するための諸理論について、文献学習、討議を通して理解を深める
	13	がん疾患をもつ人々とその家族を理解する (3)	がん疾患をもつ人々とその家族を理解するための諸理論について、文献学習、討議を通して理解を深める
	14	がん疾患をもつ人々とその家族を理解する (4)	がん疾患をもつ人々とその家族を理解するための諸理論について、文献学習、討議を通して理解を深める
	15	がん疾患をもつ人々と家族が必要とする支援について検討する	がん疾患をもつ人々とその家族の理解をもとに、支援に関する諸理論および実践・研究への適用について、文献学習、討議を通して検討する
事前・事後学習課題	事前課題 授業テーマに沿って、文献を収集・検討し、授業に主体的に参加できるよう準備する。必要に応じてプレゼンテーションの準備資料を作成する。または、事前に配布された準備資料を熟読し、討議に参加できるよう準備する。 事後課題 討議内容を整理し、まとめておくこと。		
評価基準	平常点(作成資料、討議への参加、出席状況)70%、レポート30%		
教材等	書名「クロニックイルネス 人と病いの新たななかかわり」 著者名 アイリーン・モロフ・ラブキン、パメラ D. ラーセン (黒江 ゆり子 監訳) 出版社名 医学書院		
備考			

科目名	地域療養生活支援看護学特論	科目名 (英文)	Advanced Community Health Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	後閑 容子, 白田 久美子, 松田 千登勢

授業概要・目的	地域における高齢者、健康者、療養者に関する看護活動において、活用する概念や理論を踏まえ、高齢者や療養者、家族の看護について探究し、地域における療養生活支援看護に関わる研究への関心と探究力を養う。		
到達目標	1) 看護の対象としての個人、家族、集団、地域を支援する活動の理論、概念を、論文を通して探究し、看護実践活動への理解、地域看護学や在宅看護に関する探究心を養う。 2) 高齢者の健康の維持・増進、高齢者特有の疾病予防や管理への看護について、理論や概念を理解し、高齢者看護の特性を探究する。 3) 地域で生活するがん患者の療養を支えるために有用な理論、概念の理解を深め、看護実践活動への適応を考察する。		
授業方法と留意点	原則として授業計画に基づく授業を展開する。授業は講義を中心とし、部分的にテーマに関する討議も含める。学修効果を高めるために、予習、復習を行うよう促し、討議では主体的な意見交換を行うよう指導する。理論に基づく看護実践については、最新の研究成果を紹介するなどし、実際の事例を理論に基づきながら理解できる方法を具体的に講義する。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	地域看護の対象と看護活動の理解	個人、家族、集団、地域を対象とする看護活動と看護職の役割
	2	集団、地域を対象とする看護活動に活用する理論、モデルの理解	B. ニューマンのシステムモデル, HBM 等の理解と関連論文から活用例を考察
	3	集団、地域を対象とする看護活動の理論と方法論	ヘルスプロモーションの理解とプリシード・プロシードモデルの活用
	4	個人・家族を対象とする看護の理論と方法	家族システム理論など家族ケアに関する理論の理解
	5	個人・家族を対象とする看護の実際	訪問看護の役割と機能、地域における家族看護の研究の動向
	6	慢性の病として、地域で生活するがん看護の対象と看護活動の理解	治療を受けがんと共に生活を送るがんサバイバーシップの概念、歴史的背景や日本の現状についての理解
	7	慢性の病として、がん看護学の基盤となる主要概念・理論の理解 (1)	がんサバイバーの取り組み、がんサバイバーの4つの季節と看護支援の理解、がんサバイバーが直面する困難とアドボカシーを理解
	8	慢性の病として、がん看護学の基盤となる主要概念・理論の理解 (2)	全人的視点、アセスメント、ケア、セルフケア、セルフケア教育と患者教育の違い、看護理論 (オレムのセルフケア理論) の理解
	9	慢性の病として、がん看護学の基盤となる主要概念・理論の理解 (3)	ソーシャルサポート、看護理論 (病みの軌跡、危機理論とストレス理論、ストレス・コーピング理論) の理解
	10	慢性の病として、がん患者を理解するための理論の活用	がんで療養するがん患者の文献・事例を通して理論を活用し、看護実践のあり方を考察する
	11	高齢者とその家族の理解 (1)	加齢に伴う特性、発達課題、家族システム理論を通しての理解を深める
	12	高齢者とその家族の理解 (2)	認知症、障がい等を持つ高齢者に対して、評価指標、アセスメントツールを活用しての理解を深める
	13	高齢者の理解のための理論の活用	サクセスフルエイジング、コンフォート理論、エンパワメントの活用について検討する
	14	高齢者の健康の維持・増進のための看護実践	認知症、障がい等を持つ高齢者へのケアおよび介護予防の看護実践について理解する
	15	高齢者への看護実践と課題	高齢者看護の役割と機能、看護実践のあり方を考察する
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復習		
評価基準	参加態度、プレゼンテーション・討議内容、レポートなどを総合的に評価する。 講義への参加態度・プレゼンテーション・討議内容：30% レポート：70%		
教材等	参考書	慢性疾患の病みの軌跡	ビエール・ウグ著、黒江ゆり子訳 医学書院
	参考書	慢性疾患を生きる	アンセルム L. ストラウス著、南裕子訳 医学書院
	参考書	実践 ヘルスプロモーション	ローレンス・グリーン著、進馬征峰訳 医学書院
	参考書	Readings in Family Nursing	G. D. Wegner Lippincott
備考			

科目名	療養生活支援看護学演習	科目名 (英文)	Advanced Seminar of Adult Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	田中 結華, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 吉川 有葵

授業 (指導) 概要・目的	療養する人々とその家族が経験する、健康問題、健康課題を文献によって明らかにし、その支援方法および評価を行う。関心のあるテーマを焦点づけ、疑問を明確にして、フィールドワーク・実習を行い、療養する人々とその家族の現象を、それらの人々が生きる場で把握する。これらを基に、対象者が抱える解決困難な問題、その社会情勢なども含めた背景を、関連する様々な理論や概念を用いながら深く思索し、研究課題を明確化する。
到達目標	1. 自らの関心領域における文献検討を行い、プレゼンテーション、討議を通して研究疑問を述べることができる。 2. 疑問や問題としていることを研究課題へと発展するために、自らの関心領域において主体的にフィールドを設定し、フィールドワーク・実習を行うことができる。 3. 文献検討やフィールドワーク・実習実施の成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確に述べるができる。
授業方法と留意点	各学生の関心領域に焦点を当てて文献検索を行い、ゼミ形式での文献検討、プレゼンテーション、討議を行い、研究疑問を明確化する。さらに、研究疑問に沿ったフィールドワーク・実習の計画を学生各自が立案・実施し、対象や対象を取り巻く状況、実践活動を通じた支援のあり方を把握する。文献検討とフィールドワーク・実習の成果から得た見解をまとめ、プレゼンテーション、討議を通して、研究課題の明確化を行う。フィールドワークは枚方市保健所など『健康医療都市ひらかたコンソーシアム』に参加している機関あるいは教育研究にかかる連携協定を締結している4病院などを中心とした臨地での実践を行い、実習は星ヶ丘医療センターの病棟および外来で指導の下、実践を行う。いずれも平日、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って実施する。
授業 (指導) 計画	第1～7回 研究疑問の明確化 自らの関心領域における文献検討を広く行い、プレゼンテーション、討議を通して研究疑問を明確にする。 第8～22回 フィールドワーク・実習 疑問や問題としていることを研究課題へと発展するために、自らの関心領域においてフィールドを設定し、フィールドワーク・実習を行う。 第23～30回 研究課題の明確化 文献検討やフィールドワーク・実習実施の成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確にする。
事前・事後学習課題	<事前課題> 毎回、授業計画に沿って文献検討、資料作成を行い、あるいは配付された資料を熟読し、プレゼンテーション、討議が活発になるよう、各自準備すること。 <事後課題> 授業中の学びを整理し、明確になった課題に取り組み、次回への準備をすること。
評価基準	平常点(出席状況、作成資料、討議への参加)60%、フィールドワーク・実習状況40%
教材等	授業の中で適宜紹介する。
備考	フィールドワークや実習においては、適切なマナーや参加態度も重視する。

科目名	地域療養生活支援看護学演習	科目名 (英文)	Advanced Seminar of Community Health Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	後閑 容子, 白田 久美子, 松田 千登勢, 森谷 利香

授業 (指導) 概要・目的	地域における高齢者、療養者および難病患者への看護とその家族やコミュニティーとのかかわり、ならびに地域の健康増進に関する看護活動など、地域での生活者としての視点に基づいた看護を実践するうえでの疑問や問題意識を明らかにする。
到達目標	この問題にかかわる文献検索やクリティーク、プレゼンテーションや討議を通して疑問を明確にする。さらにフィールドワーク・実習の実践活動を行い、疑問としていることを、研究課題へと発展できる能力を養う。
授業方法と留意点	原則として授業計画に基づき授業を展開する。文献検討、フィールドワーク・実習、プレゼンテーション、討議のすべてにおいて、主体的に学修するよう指導する。また、学修の各段階において教員より細やかな指導を行い、着実に知識を修得、整理しながら課題を探究し、実践できるようにする。フィールドワークは枚方市保健所など『健康医療都市ひらかたコンソーシアム』に参加している機関あるいは教育研究にかかる連携協定を締結している4病院などを中心とした臨地での実践を行い、実習は星ヶ丘医療センターの病棟および外来で指導の下、実践を行う。いずれも平日、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って実施する。
授業 (指導) 計画	第1、2回 オリエンテーション 演習のガイダンス 第3、4回 フィールドワーク・実習の課題検討(1) 課題に関する国内外の文献選択、文献検討 第5、6回 フィールドワーク・実習の課題検討(2) 課題に関する現状把握と討議 第7、8回 フィールドワーク・実習の計画立案 フィールドワーク・実習の計画立案 第9回～26回 フィールドワーク・実習の実施 課題に関するフィールドワーク・実習、参与観察等、計画を実施 第27、28回 まとめ フィールドワーク・実習の成果のまとめ 第29、30回 プレゼンテーション フィールドワーク・実習の成果と研究課題をプレゼンテーションする
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復習
評価基準	参加態度、プレゼンテーション・討議内容、レポートなどを総合的に評価する。 参加態度・プレゼンテーション・討議内容：60% レポート：40%
教材等	授業のなかで適宜紹介する
備考	

科目名	療養生活支援看護学援助特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing Care for Adults
配当年次	2年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	田中 結華, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 吉川 有葵

授業概要・目的
療養生活を送る人々と家族のQOL向上に向けた看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開を通して検討する。療養生活を送る上で、人々が必要とする行動の変容や、そのための教育方略、あるいは急性期からリハビリテーション、終末期といった関病過程における療養を支援する看護実践を探究する。さらに、これらの看護実践に伴う、対象のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動についても考察する。

到達目標
1. 心疾患など、急性期からリハビリテーションを経て療養生活を送る対象とその家族のQOL向上に向けた看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割について考察を行う。
2. 移植医療など、生命の危機を経験し、長期療養を送る対象とその家族へのQOL向上に向けた看護実践方法について事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割および活動について考察を行う。
3. 排泄経路の変更など、障害セルフマネジメントを必要とする対象とその家族へのQOL向上に向けた看護実践方法について事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割および活動について考察を行う。
4. がん患者のエンド・オブ・ライフケアの現状と課題について検討し、がん終末期にある患者が最後までその人らしく生き抜くことを支えるために必要となる total pain, 特に spiritual pain へのケア、コミュニケーション、意志決定支援などに関する理論を看護実践に適用することについて、文献研究、討論を通して論述する。

授業方法と留意点
文献学習および事例検討を通して、対象者への看護実践方法を探究する。学生はテーマに基づいて事例を取り上げ、既習の理論やエビデンスについて文献を用いて検討し、プレゼンテーションを行う。さらに学生全員で討議を行い、QOL向上に向けた看護実践方法およびケア質向上について探究する。

回数	授業テーマ	内容・方法等
2	障害セルフマネジメントを必要とする対象とその家族への援助 (1)	排泄経路の変更など、障害セルフマネジメントを必要とする対象とその家族へのQOL向上に向けた看護実践方法について事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
3	障害セルフマネジメントを必要とする対象とその家族への援助 (2)	排泄経路の変更など、障害セルフマネジメントを必要とする対象とその家族へのQOL向上に向けた看護実践方法について事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
4	障害セルフマネジメントを必要とする対象とその家族への援助 (3)	排泄経路の変更など、障害セルフマネジメントを必要とする対象とその家族へのQOL向上に向けた看護実践方法について事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
5	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族への援助 (1)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族のケアの現状と課題について検討する。
6	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族への援助 (2)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族のケアに関する諸理論および看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
7	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族への援助 (3)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族のケアに関する諸理論および看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
8	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族への援助 (4)	生命の危機状態にある患者および周手術期患者とその家族のケアに関する諸理論および看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
9	エンド・オブ・ライフを生きるがん患者とその家族への援助 (1)	ターミナルの各ステージにおけるがん患者とその家族のケアにおける現状と課題について検討する。
10	エンド・オブ・ライフを生きるがん患者とその家族への援助 (2)	エンド・オブ・ライフケアに関する諸理論および看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
11	エンド・オブ・ライフを生きるがん患者とその家族への援助 (3)	エンド・オブ・ライフケアに関する諸理論および看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
12	エンド・オブ・ライフを生きるがん患者とその家族への援助 (4)	エンド・オブ・ライフケアに関する諸理論および看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
13	臓器移植を受ける患者とその家族への援助 (1)	臓器移植を受ける患者とその家族のケアにおける現状と倫理的問題、課題について検討する。
14	臓器移植を受ける患者とその家族への援助 (2)	臓器移植における倫理的問題、課題について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
15	臓器移植を受ける患者とその家族への援助 (3)	臓器移植における倫理的問題、課題について、事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。

事前・事後学習課題
<事前課題>
毎回、授業計画に沿って文献検討、資料作成を行い、あるいは配付された資料を熟読し、プレゼンテーション、討議が活発になるよう、各自準備すること。
<事後課題>
授業中の学びを整理し、明確になった課題に取り組み、次回への準備をすること。

評価基準
平常点 (作成資料・討議への参加・出席状況) 80%、レポート 20%

教材等
授業の中で適宜紹介する。

備考
発表時、および討議、授業後の総括の中でフィードバックを行う。

科目名	地域療養生活支援看護学援助特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing Care for Community Health
配当年次	2年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	後閑 容子, 白田 久美子, 松田 千登勢

授業概要・目的	高齢者、難病、在宅療養者と家族への看護など地域医療における個人、家族、集団、地域を対象とした看護活動に関する問題などを取り上げ、その問題の背景と現状、課題を文献および実践者への聞き取りなどを通して把握し、今後の看護活動としてのあり方を探究する。
到達目標	(1) 在宅療養者と家族への看護、訪問活動について、事例および文献を用いて検討し、地域看護における看護職者の役割と活動について考察する。 (2) 高齢者・家族を対象とした高齢者施設および病院における看護実践、認知症高齢者のQOL向上に向けた看護実践方法について、事例および文献を用いて検討し、看護のあり方について考察を行う。 (3) 地域で生活するがん患者など、病いを受容し共に生きる対象者とその家族のQOL向上に向けた看護実践方法について事例および文献を用いて検討し、看護職者の役割と活動について考察を行う。
授業方法と留意点	原則として授業計画に基づく授業を展開する。文献検討、フィールドワーク、プレゼンテーション、討議の全てにおいて、主体的に学修するよう指導する。また、学習効果を高めるために、予習、復習を促す。文献検討に使用する研究論文は最新かつ質の高いものを選び、また事例検討の事例は学生の経験に基づくものとし、その理解を助ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等
2	訪問看護と地域連携	社会資源の開発、地域連携、地域ケアシステムなどから看護職の役割と機能を考察する
3	訪問看護とリスクマネジメント	訪問看護におけるリスクとその現状を把握し、マネジメントのあり方を考察する
4	家族の関係性を把握する方法の理解と活用	Genogram, Ecomap の理解と看護活動への活用を考える
5	家族看護、訪問看護における研究の動向と課題	家族看護学および訪問看護分野における研究の動向と今後の課題を探究する
6	病院の外来で治療中のがん患者の看護実践	地域で生活しながら治療中の対象者に対する症状マネジメント、セルフケアなどの看護実践について理解し課題を考察する
7	外来で治療中のがん患者への他職種連携	施設における退院支援、地域連携パスの活用、他職種連携について考察する
8	在宅で療養中のがん患者および家族に対する看護実践	地域で療養している対象者および家族に対して、ソーシャルサポート、QOL向上を目指した支援のあり方について理解し課題を考察する
9	在宅で療養中のがん患者および家族への他職種連携	自宅で療養中のがん患者に対する他職種連携、苦痛・トータルペイン・悲歎についての看護支援などのあり方について考察する
10	地域で生活するがん患者の看護に関する研究の動向と課題	地域で生活するがん患者の看護に関する研究の動向と今後の課題を探究する
11	高齢者施設における高齢者への看護実践	高齢者施設における認知症高齢者へのケア、看取り等の看護実践のあり方を考察する
12	病院における高齢者への看護実践	病院で治療を受ける高齢者への自己決定、セルフケア、退院調整等の看護実践のあり方を考察する
13	高齢者へのサポートシステムと他職種間の連携	介護保険制度、社会資源の現状を把握し、事例を通してサポートシステムの活用方法と他職種間の連携について検討する
14	高齢者看護におけるリスクマネジメント	転倒、感染などのリスクマネジメントに関する実践のあり方を考察する
15	高齢者看護に関する研究の動向と課題	高齢者看護に関する研究の動向と課題について考察し、研究テーマに応じた必要な研究方法を検討する

事前・事後学習課題	授業の予習復習
評価基準	参加態度、プレゼンテーション・討議内容、レポートなどを総合的に評価する。 参加態度・プレゼンテーション・討議内容 60% レポート 40%
教材等	クロニクイルネス アイリーン・モロフ・ラブキン (黒江 ゆり子 訳) 医学書院 Nurses and Families L.M. Wright F.A. Davis
備考	

科目名	発達支援看護学特論	科目名 (英文)	Advanced Child and Family Health Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 眞野 祥子

授業概要・目的	成長発達理論、家族関係理論、セルフケア理論など、子どもと家族に関する諸理論や概念を学修し、子どもの文化的背景、社会状況や生活および養育環境との関連の中で子どもと家族の理解を深める。																																																	
到達目標	<p>(1) 子どもと家族を取り巻く社会状況や文化的背景について学修する。また、認知発達理論など、子どもの成長発達の諸理論や概念の理解を深め、看護への適用を考察する。</p> <p>(2) 家族関係理論など、家族の理解と支援を探究するための諸理論や概念について理解を深め、看護への適用を考察する。</p> <p>(3) セルフケア理論、ストレス対処理論など、諸理論や概念について理解を深め、看護への適用を考察する。</p>																																																	
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき授業を行う。授業計画に沿って学生にレジメ作成、プレゼンテーションを求める。テーマ内容についてできるだけ深く学修できるよう、内容について議論を行う。学生が理論と実践を結び付けられるように、自身が経験した事例を用いて、既習の理論を適用して検討する。新たな疑問点が生じた場合には、次回の授業の課題とし理解を深める。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>子どもと家族を取り巻く社会・文化</td> <td>子どもと家族の発達に影響を及ぼす社会環境・文化的背景</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>子どもと家族の権利と看護職の役割</td> <td>子どもと家族の権利に関する歴史の変遷と権利擁護、看護職の役割</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発達理論 (1)</td> <td>ピアジェ認知発達理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>発達理論 (2)</td> <td>フロイトの自我発達理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>発達理論 (3)</td> <td>発達理論を用いた事例検討</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>発達理論 (4)</td> <td>エリクソン心理社会的発達理論 (乳児期～思春期) と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発達理論 (5)</td> <td>エリクソン心理社会的発達理論 (壮年期以降) と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発達理論 (6)</td> <td>発達理論を用いた事例検討</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>家族関係理論 (1)</td> <td>アタッチメント理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>家族関係理論 (2)</td> <td>家族システム論、家族力動論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>家族関係理論 (3)</td> <td>家族関係理論を用いた事例検討と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>家族介入のための理論 (1)</td> <td>ストレスコーピング理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>家族介入のための理論 (2)</td> <td>セルフケア理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>家族介入のための理論 (3)</td> <td>認知行動理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>家族介入のための理論 (4)</td> <td>理論を用いた事例検討</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	子どもと家族を取り巻く社会・文化	子どもと家族の発達に影響を及ぼす社会環境・文化的背景	2	子どもと家族の権利と看護職の役割	子どもと家族の権利に関する歴史の変遷と権利擁護、看護職の役割	3	発達理論 (1)	ピアジェ認知発達理論と看護への適用	4	発達理論 (2)	フロイトの自我発達理論と看護への適用	5	発達理論 (3)	発達理論を用いた事例検討	6	発達理論 (4)	エリクソン心理社会的発達理論 (乳児期～思春期) と看護への適用	7	発達理論 (5)	エリクソン心理社会的発達理論 (壮年期以降) と看護への適用	8	発達理論 (6)	発達理論を用いた事例検討	9	家族関係理論 (1)	アタッチメント理論と看護への適用	10	家族関係理論 (2)	家族システム論、家族力動論と看護への適用	11	家族関係理論 (3)	家族関係理論を用いた事例検討と看護への適用	12	家族介入のための理論 (1)	ストレスコーピング理論と看護への適用	13	家族介入のための理論 (2)	セルフケア理論と看護への適用	14	家族介入のための理論 (3)	認知行動理論と看護への適用	15	家族介入のための理論 (4)	理論を用いた事例検討
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																
1	子どもと家族を取り巻く社会・文化	子どもと家族の発達に影響を及ぼす社会環境・文化的背景																																																
2	子どもと家族の権利と看護職の役割	子どもと家族の権利に関する歴史の変遷と権利擁護、看護職の役割																																																
3	発達理論 (1)	ピアジェ認知発達理論と看護への適用																																																
4	発達理論 (2)	フロイトの自我発達理論と看護への適用																																																
5	発達理論 (3)	発達理論を用いた事例検討																																																
6	発達理論 (4)	エリクソン心理社会的発達理論 (乳児期～思春期) と看護への適用																																																
7	発達理論 (5)	エリクソン心理社会的発達理論 (壮年期以降) と看護への適用																																																
8	発達理論 (6)	発達理論を用いた事例検討																																																
9	家族関係理論 (1)	アタッチメント理論と看護への適用																																																
10	家族関係理論 (2)	家族システム論、家族力動論と看護への適用																																																
11	家族関係理論 (3)	家族関係理論を用いた事例検討と看護への適用																																																
12	家族介入のための理論 (1)	ストレスコーピング理論と看護への適用																																																
13	家族介入のための理論 (2)	セルフケア理論と看護への適用																																																
14	家族介入のための理論 (3)	認知行動理論と看護への適用																																																
15	家族介入のための理論 (4)	理論を用いた事例検討																																																
事前・事後学習課題	各テーマに沿って、レジメを作成し、プレゼンテーションができる準備を行う																																																	
評価基準	作成したレジメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容 (50%)、課題レポート (50%) など、総合的に評価する。																																																	
教材等	授業の中で適宜紹介する																																																	
備考																																																		

科目名	女性健康看護学特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing for Women's Health
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子

授業概要・目的	周産期を含む、女性のライフサイクル全般にわたる専門的な看護援助、女性の健康増進と健康に関する問題および疑問を解決するために、Evidence-based Medicine/Nursing (EBM/EBN) に基づいた知見を学修する。																																																	
到達目標	<p>(1) 周産期を含む、思春期の女性における、健康問題への看護援助、周産期ケアの有効性、意思決定の支援と理論、EBM/EBN について学ぶ。</p> <p>(2) ライフステージ各期にある女性とその家族の健康問題について理解を深め、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から健康教育、支援のあり方について学ぶ。</p>																																																	
授業方法と留意点	授業の理解を深めるために、授業に参加する学生には、予習・復習を促すようにする。毎回の授業において、授業への感想、要望を取り、授業の内容と進め方に反映させる。また、コクランライブラリーを活用し EBM/EBN を深める。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本における女性の健康</td> <td>日本における女性の健康問題の歴史的背景について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>海外における女性の健康</td> <td>海外における女性の健康問題の歴史的経緯について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ウイメンズヘルスの現状と問題</td> <td>国内外の女性の健康問題の現状と問題点の分析</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>思春期の健康問題と EBM/EBN (1)</td> <td>思春期女性の健康問題における EBM/EBN の意義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>思春期の健康問題と EBM/EBN (2)</td> <td>思春期女性の健康問題における EBM/EBN のデータの見方</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>周産期ケアの有効性</td> <td>周産期に行われているケアを EBM/EBN の視点から分析する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>意思決定への支援</td> <td>意思決定の支援のために意思決定を支える理論について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ジェンダー・セクシャリティと女性の健康問題</td> <td>ジェンダー・セクシャリティに関連する理論からみた女性の健康問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と特性 (1)</td> <td>ライフステージ各期の発達段階とその個性について</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と特性 (2)</td> <td>ライフステージ各期の発達段階とその個性について (健康教育プラン作成 I)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と特性 (3)</td> <td>ライフステージ各期の女性とその家族 (パートナー) について</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と特性 (4)</td> <td>ライフステージ各期の女性とその家族 (パートナー) について (健康教育プラン作成 II)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と援助 (1)</td> <td>リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点からライフステージ各期の健康問題を分析する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と援助 (2)</td> <td>健康教育プランのプレゼンテーション、ならびにディスカッション</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と援助 (3)</td> <td>健康教育プランのプレゼンテーション、ならびにディスカッション</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	日本における女性の健康	日本における女性の健康問題の歴史的背景について	2	海外における女性の健康	海外における女性の健康問題の歴史的経緯について	3	ウイメンズヘルスの現状と問題	国内外の女性の健康問題の現状と問題点の分析	4	思春期の健康問題と EBM/EBN (1)	思春期女性の健康問題における EBM/EBN の意義	5	思春期の健康問題と EBM/EBN (2)	思春期女性の健康問題における EBM/EBN のデータの見方	6	周産期ケアの有効性	周産期に行われているケアを EBM/EBN の視点から分析する	7	意思決定への支援	意思決定の支援のために意思決定を支える理論について	8	ジェンダー・セクシャリティと女性の健康問題	ジェンダー・セクシャリティに関連する理論からみた女性の健康問題	9	ライフステージ各期の健康問題と特性 (1)	ライフステージ各期の発達段階とその個性について	10	ライフステージ各期の健康問題と特性 (2)	ライフステージ各期の発達段階とその個性について (健康教育プラン作成 I)	11	ライフステージ各期の健康問題と特性 (3)	ライフステージ各期の女性とその家族 (パートナー) について	12	ライフステージ各期の健康問題と特性 (4)	ライフステージ各期の女性とその家族 (パートナー) について (健康教育プラン作成 II)	13	ライフステージ各期の健康問題と援助 (1)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点からライフステージ各期の健康問題を分析する	14	ライフステージ各期の健康問題と援助 (2)	健康教育プランのプレゼンテーション、ならびにディスカッション	15	ライフステージ各期の健康問題と援助 (3)	健康教育プランのプレゼンテーション、ならびにディスカッション
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																
1	日本における女性の健康	日本における女性の健康問題の歴史的背景について																																																
2	海外における女性の健康	海外における女性の健康問題の歴史的経緯について																																																
3	ウイメンズヘルスの現状と問題	国内外の女性の健康問題の現状と問題点の分析																																																
4	思春期の健康問題と EBM/EBN (1)	思春期女性の健康問題における EBM/EBN の意義																																																
5	思春期の健康問題と EBM/EBN (2)	思春期女性の健康問題における EBM/EBN のデータの見方																																																
6	周産期ケアの有効性	周産期に行われているケアを EBM/EBN の視点から分析する																																																
7	意思決定への支援	意思決定の支援のために意思決定を支える理論について																																																
8	ジェンダー・セクシャリティと女性の健康問題	ジェンダー・セクシャリティに関連する理論からみた女性の健康問題																																																
9	ライフステージ各期の健康問題と特性 (1)	ライフステージ各期の発達段階とその個性について																																																
10	ライフステージ各期の健康問題と特性 (2)	ライフステージ各期の発達段階とその個性について (健康教育プラン作成 I)																																																
11	ライフステージ各期の健康問題と特性 (3)	ライフステージ各期の女性とその家族 (パートナー) について																																																
12	ライフステージ各期の健康問題と特性 (4)	ライフステージ各期の女性とその家族 (パートナー) について (健康教育プラン作成 II)																																																
13	ライフステージ各期の健康問題と援助 (1)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点からライフステージ各期の健康問題を分析する																																																
14	ライフステージ各期の健康問題と援助 (2)	健康教育プランのプレゼンテーション、ならびにディスカッション																																																
15	ライフステージ各期の健康問題と援助 (3)	健康教育プランのプレゼンテーション、ならびにディスカッション																																																
事前・事後学習課題	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習																																																	
評価基準	課題への取り組み、課題レポートやプレゼンテーションの内容を基に総合的に評価する。																																																	
教材等	出席・参加状況：20% 講義での回答内容：10% 発表・レポート：70%																																																	
備考	授業の中で適宜紹介する																																																	

科目名	発達支援看護学演習	科目名 (英文)	Advanced Seminar of Child and Family Health
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 眞野 祥子

授業 (指導) 概要・目的	発達主体としての子どもとその家族を理解し、健康保持・増進および疾病予防、健康回復にむけた実践における課題、専門職のケアの質の向上に向けた教育に関する課題など、文献検索やクリティック、プレゼンテーションや討議を通して疑問を明確にする。さらにフィールドワーク・実習の実践活動を行い、疑問や問題としていることを、研究課題へと発展できる能力を養う。
到達目標	1. 子どもと家族のケアに関する自らの研究疑問をプレゼンテーションできる 2. 研究疑問を明らかにするためにフィールドワークを計画できる 3. 研究疑問から明確な研究課題へと焦点化できる 4. 研究課題をわかりやすく説明できる
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき授業を行う。文献検討、フィールドワーク・実習、プレゼンテーション、討議の全てにおいて、深く学修するよう、内容について議論を行う。また、学修の各段階において、きめ細やかな指導を行い、知識や内容を整理し課題を明確にできるよう指導する。フィールドワークは枚方市保健所など『健康医療都市ひらかたコンソーシアム』に参加している機関あるいは教育研究にかかる連携協定を締結している4病院などを中心とした臨地での実践を行い、実習は星ヶ丘医療センターの病棟および外来で指導の下、実践を行う。いずれも平日、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って実施する。
授業 (指導) 計画	研究疑問について オリエンテーション・研究疑問についてプレゼンテーション 第2回 研究疑問について文献検討 (1) 研究疑問に対する文献検討 第3回 研究疑問について文献検討 (2) 研究疑問に対する文献検討 第4回 研究疑問について文献検討 (3) 研究疑問に対する文献検討 第5回 フィールドワーク・実習計画立案 フィールドワーク・実習の目的、方法、内容 第6～12回 フィールドワーク・実習 研究疑問を焦点化するためのフィールドワーク・実習 第13回 プレゼンテーション (1) 研究疑問の焦点化に向けたプレゼンテーション、討論 第14回 プレゼンテーション (2) 研究疑問の焦点化に向けたプレゼンテーション、討論 第15回 研究疑問から研究課題へ 研究課題に関連する文献検討 第16～22回 課題を明確化するための文献検討 研究課題に関する国内外の文献検討 第23回 フィールドワーク計画立案 フィールドワーク・実習の目的、方法、内容 第24～28回 課題を明確化するためのフィールドワーク・実習 課題を明確化するためのフィールドワーク・実習 第29回 プレゼンテーション 研究課題についてのプレゼンテーション・討論 第30回 まとめ 研究課題に対する研究デザイン、方法、内容を検討
事前・事後学習課題	文献検討内容のレジメおよびプレゼンテーション準備を行う
評価基準	作成したレジメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容 (30%)、レポート課題 (70%) を総合的に評価する。
教材等	授業の中で適宜紹介する
備考	

科目名	女性健康看護学演習	科目名 (英文)	Advanced Seminar in Women's Health Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子, 福山 智子, 宮本 雅子

授業 (指導) 概要・目的	周産期を含む女性の健康保持・増進および疾病予防、健康回復にむけた実践における課題、専門職のケアの質の向上に向けた教育に関する課題など、文献検索やクリティック、プレゼンテーションや討議を通して疑問を明確にする。さらにフィールドワーク・実習の実践活動を行い、疑問や問題としていることを、研究課題へと発展できる能力を養う。
到達目標	研究課題に対して、疑問を明確にし、研究疑問を明らかにするための方法論について考えることができる。
授業方法と留意点	講義後に自己学習課題を提示する。次回の講義までに課題の到達を確認し、学修を深めることができるように工夫する。フィールドワーク・実習やプレゼンテーション、討論の全てにおいて、主体的に学修する。フィールドワークは枚方市保健所など『健康医療都市ひらかたコンソーシアム』に参加している機関あるいは教育研究にかかる連携協定を締結している4病院などを中心とした臨地での実践を行い、実習は星ヶ丘医療センターの病棟および外来で指導の下、実践を行う。いずれも平日、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って実施する。
授業 (指導) 計画	第1回 : オリエンテーション 演習ガイダンス 第2回 : 研究論文の解説 (1) 相関関係検証型デザインの研究論文 第3回 : 研究論文の解説 (2) 因果関係検証型デザインの研究論文 第4回 : 研究論文の解説 (3) 実験・準実験研究デザインの研究論文 第5回 : 研究論文の解説 (4) 質的研究デザインの研究論文 第6-7回 : フィールドワーク・実習の課題検討(1) 課題に関する国内外の文献選択、検討 第8-9回 : フィールドワーク・実習の課題検討(2) 課題に関する現状把握と討論 第10-11回 : フィールドワーク・実習の計画立案(1) フィールドワーク・実習の計画立案 第12-27回 : フィールドワーク・実習の実施(1)~(16) 課題に対するフィールドワーク・実習、計画を実施 第28-29回 : まとめ フィールドワーク・実習の成果のまとめ 第30回 : プレゼンテーション フィールドワーク・実習の成果と研究課題をプレゼンテーションする。
事前・事後学習課題	演習ガイダンス時に事前・事後の学習課題を提示する。講義前に学習課題の到達をみるので、必ず自己学習してください。
評価基準	課題への取り組み、課題レポートやプレゼンテーションの内容を基に総合的に評価する。 出席・参加状況 : 20% 課題への取り組み : 10% 発表・レポート : 70%
教材等	授業の中で適宜紹介する
備考	

科目名	発達支援看護学援助特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing Care for Child and Family
配当年次	2年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 眞野 祥子

授業概要・目的	子どもと家族の健康問題・課題を明確にし、発達促進、QOL 向上に向けた看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開を通して検討する。さらに、これらの看護実践に伴う、対象のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動についても考察する。																																																	
到達目標	<p>(1) 既習の理論やエビデンスを用いて、発達障害の子どもと家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関連する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。</p> <p>(2) 既習の理論やエビデンスを用いて、虐待を受けた子どもや不適切な養育の家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関連する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。</p> <p>(3) 既習の理論やエビデンスを用いて、重症心身障害の子どもと家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関連する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。</p>																																																	
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づきオムニバス形式で授業を行う。授業テーマに沿って学生にレジメを作成、プレゼンテーションを求める。テーマ内容についてできるだけ深く学修できるよう、内容について議論を行う。議論の内容について、新たな疑問点が生じた場合には、次の授業の課題とし理解を深める。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>重症心身障害児の概念</td> <td>重症心身障害児の歴史と現状、重症心身障害の定義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>障害児と発達</td> <td>発達評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>重症心身障害児を育てる家族の心理</td> <td>重症心身障害児育てる家族のアセスメント (事例検討を含む)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>重症心身障害児とその家族への支援 (1)</td> <td>重症心身障害児への支援</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>重症心身障害児とその家族への支援 (2)</td> <td>重症心身障害児を育てる家族への支援</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>発達障害の特性理解</td> <td>自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害に関する基本的知識</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発達障害児を育てる家族の心理</td> <td>ストレス、養育態度、障害受容</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発達障害児とその家族のアセスメント</td> <td>理論の枠組みを用いて対象を理解する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>発達障害児とその家族への支援 (1)</td> <td>発達障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発達障害児とその家族への支援 (2)</td> <td>発達障害児とその家族に対する看護の課題と展望</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>子ども虐待と現状</td> <td>子ども虐待の歴史と現状、法的定義、看護職の役割 (事例検討を含む)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>養育上支援を必要とする家族のアセスメント</td> <td>子ども虐待のリスク要因、家族アセスメントに必要な諸理論・方法論</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>養育上支援を必要とする家族への支援 (1)</td> <td>不適切な養育状況にある子どもへの治療的ケア</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>養育上支援を必要とする家族への支援 (2)</td> <td>不適切な養育の家族へのケア</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>子ども虐待予防・防止に向けた対応</td> <td>虐待予防・防止に向けた課題とケアシステムの検討</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	重症心身障害児の概念	重症心身障害児の歴史と現状、重症心身障害の定義	2	障害児と発達	発達評価	3	重症心身障害児を育てる家族の心理	重症心身障害児育てる家族のアセスメント (事例検討を含む)	4	重症心身障害児とその家族への支援 (1)	重症心身障害児への支援	5	重症心身障害児とその家族への支援 (2)	重症心身障害児を育てる家族への支援	6	発達障害の特性理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害に関する基本的知識	7	発達障害児を育てる家族の心理	ストレス、養育態度、障害受容	8	発達障害児とその家族のアセスメント	理論の枠組みを用いて対象を理解する	9	発達障害児とその家族への支援 (1)	発達障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携	10	発達障害児とその家族への支援 (2)	発達障害児とその家族に対する看護の課題と展望	11	子ども虐待と現状	子ども虐待の歴史と現状、法的定義、看護職の役割 (事例検討を含む)	12	養育上支援を必要とする家族のアセスメント	子ども虐待のリスク要因、家族アセスメントに必要な諸理論・方法論	13	養育上支援を必要とする家族への支援 (1)	不適切な養育状況にある子どもへの治療的ケア	14	養育上支援を必要とする家族への支援 (2)	不適切な養育の家族へのケア	15	子ども虐待予防・防止に向けた対応	虐待予防・防止に向けた課題とケアシステムの検討
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																
1	重症心身障害児の概念	重症心身障害児の歴史と現状、重症心身障害の定義																																																
2	障害児と発達	発達評価																																																
3	重症心身障害児を育てる家族の心理	重症心身障害児育てる家族のアセスメント (事例検討を含む)																																																
4	重症心身障害児とその家族への支援 (1)	重症心身障害児への支援																																																
5	重症心身障害児とその家族への支援 (2)	重症心身障害児を育てる家族への支援																																																
6	発達障害の特性理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害に関する基本的知識																																																
7	発達障害児を育てる家族の心理	ストレス、養育態度、障害受容																																																
8	発達障害児とその家族のアセスメント	理論の枠組みを用いて対象を理解する																																																
9	発達障害児とその家族への支援 (1)	発達障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携																																																
10	発達障害児とその家族への支援 (2)	発達障害児とその家族に対する看護の課題と展望																																																
11	子ども虐待と現状	子ども虐待の歴史と現状、法的定義、看護職の役割 (事例検討を含む)																																																
12	養育上支援を必要とする家族のアセスメント	子ども虐待のリスク要因、家族アセスメントに必要な諸理論・方法論																																																
13	養育上支援を必要とする家族への支援 (1)	不適切な養育状況にある子どもへの治療的ケア																																																
14	養育上支援を必要とする家族への支援 (2)	不適切な養育の家族へのケア																																																
15	子ども虐待予防・防止に向けた対応	虐待予防・防止に向けた課題とケアシステムの検討																																																
事前・事後学習課題	授業の予習復習																																																	
評価基準	作成したレジメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容、課題レポートなど、総合的に評価する。 レジメ・プレゼンテーション内容・討議内容 50% レポート 50%																																																	
教材等	授業の中で適宜紹介する																																																	
備考																																																		

科目名	女性健康看護学援助特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing Care for Women's Health
配当年次	2年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子, 福山 智子, 宮本 雅子

授業概要・目的	周産期を含む女性の健康に関する看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開を通して検討する。さらに、これらの看護実践に伴う、対象のアドボカシへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動についても考察する。	
到達目標	1) 女性の健康と看護実践、周産期女性と家族の看護実践上の倫理的概念について検討し、看護職者の役割と活動についても考察する。 2) 胎児及び新生児の健康と看護実践、実践上の倫理的概念について検討し、看護職者の役割と活動についても考察する。 3) 胎児・新生児のアドボカシに関する海外文献クリティーク及び実践上の倫理的概念について明らかにする。 4) 助産師の倫理的ジレンマ、女性、周産期女性ならびに家族のアドボカシに関する海外文献クリティーク及び実践上の倫理的概念について明らかにする。	
授業方法と留意点	授業の理解を深めるために、授業に参加する学生には、予習・復習を促すようにする。毎回の授業において、授業への感想、要望をとり、授業の内容と進め方に反映させる。 また、授業の中での教育ディベートの実践から授業の課題をより深く理解できるように工夫する。	
授業計画	回数	授業テーマ 内容・方法 等
	1	女性の健康と看護実践 女性の健康と看護・助産実践の方法のあり方について
	2	看護実践上の倫理概念の明確化 (1) 看護・助産実践における女性の人権問題とアドボカシ
	3	看護実践上の倫理概念の明確化 (2) 看護・助産実践における周産期女性と家族の医療過誤とアドボカシ
	4	看護実践上の倫理概念の明確化 (3) 看護・助産実践における新生児への高度医療とアドボカシ
	5	看護実践上の倫理概念の明確化 (4) 看護・助産実践における胎児の生命倫理とアドボカシ
	6	海外文献クリティーク (1) 助産師の倫理的ジレンマ
	7	海外文献クリティーク (2) 看護・助産実践における女性のアドボカシ、女性問題を外国文献からとりあげる
	8	海外文献クリティーク (3) 看護・助産実践における周産期女性と家族のアドボカシ
	9	海外文献クリティーク (4) 看護・助産実践における新生児のアドボカシ
	10	海外文献クリティーク (5) 看護・助産実践における胎児のアドボカシ
	11	倫理に関する検討 文献・事例から倫理的行動および倫理的調整について討論
	12	倫理に関する検討 文献・事例から倫理的行動および倫理的調整について討論
	13	倫理に関する検討 文献・事例から倫理的行動および倫理的調整について討論
	14	倫理に関する検討 文献・事例から倫理的行動および倫理的調整について討論
	15	倫理に関する検討 文献・事例から倫理的行動および倫理的調整について討論
事前・事後学習課題	事前学習：なし 事後学習：講義内容の復習	
評価基準	課題への取り組み、課題レポートやプレゼンテーションの内容を基に総合的に評価する。 【評価割合】 出席・参加状況：20% 講義での回答内容：10% 発表・レポート：70%	
教材等	講義の中で適宜紹介する。 参考書：「看護実践のための看護倫理」 G.Lハルステッド他 (藤村龍子監訳) 医学書院	
備考		

科目名	特別研究	科目名 (英文)	Research Dissertation or Advanced Research
配当年次	2年	単位数	8
学期 (開講期)	通年集中	授業担当者	後閑 容子, 赤井 由紀子, 池田 友美, 鎌田 佳奈美, 白田 久美子, 宮本 雅子, 泉川 孝子, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 田中 結華, 福山 智子, 松田 千登勢, 眞野 祥子, 森谷 利香

授業 (指導) 概要・目的	専攻する領域の演習で明らかになった研究疑問に基づき、研究課題の明確化、研究目的の設定、研究計画立案、研究倫理審査、データ収集、分析・解釈、論文作成、発表が行えるよう指導し、研究を実施する基礎的な能力を育成する。
到達目標	専攻する領域の演習で明らかになった研究疑問に基づき、研究課題の明確化、研究目的の設定、研究計画立案、研究倫理審査、データ収集、分析・解釈、論文作成、発表が行え、研究を実施する基礎的な能力を身につける。
授業方法と留意点	講義、プレゼンテーションと討議、調査・実験などの方法を用いて授業を行う。学生の研究領域と研究課題に基づき、指導教員から指導を受けるとともに、学生間による発表・討議などにより学修を深め、かつ学びを共有できるよう授業をし、さらに、学生が自主的に学修を進められるように指導する。
授業 (指導) 計画	担当教員により異なるが、研究者としての倫理、研究計画、調査・実験、論文作成、発表等の指導を受ける。 後閑 容子 個人・家族、集団、地域を対象とする地域看護活動に関する研究 (後閑教授の研究指導補助：松田 千登勢、森谷 利香) 田中 結華 慢性の病いととも生きる人々への看護、オストメイトの看護に関する研究 (田中教授の研究指導補助：稲垣 美紀、竹下 裕子) 白田 久美子 地域で療養するがん患者と家族のQOL向上に向けた看護支援に関する研究 鎌田 佳奈美 看護職による子ども虐待の予防、早期発見、支援に関する研究 池田 友美 病気や障がいのある子どもと家族への生活支援に関する研究 眞野 祥子 障害のある子どもを育てる親に対する育児支援に関する研究 赤井 由紀子 思春期から老年期女性の性と生殖の健康および睡眠に関する研究 泉川 孝子 リプロダクティブヘルスケア、セクシュアリティ、母子ケアに関する研究 (泉川教授の研究指導補助：福山 智子) 宮本 雅子 思春期、周産期、更年期女性への健康教育および周産期の助産技術に関する研究
事前・事後学習課題	授業の予習復習
評価基準	修士論文の提出および研究発表の公聴会を行い、研究科委員会にて審議する。
教材等	担当教員により適宜紹介する
備考	

発行 2017年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪市寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

発行 2017年4月

常翔学園 摂南大学

枚方校地

〒573-0101

大阪市枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3101 【枚方事務室】

